

I 集落代表者聞き取り調査 <訪問による聞き取り調査>

- 調査箇所：1,451集落
- 実施期間：令和3年6月～令和4年1月
- 調査対象：地区長等の集落代表者
- 調査項目：56項目
- 調査方法：調査員の訪問による聞き取り
漁業10項目
(県及び市町村職員の同行有り)

II 住民アンケート調査 <個人の記述による調査>

- 調査箇所：109集落
- 実施期間：令和3年9月～令和4年1月
- 調査対象：集落在住の18歳以上の方
- 調査項目：51項目
- 調査方法：アンケート調査票の配布・回収
- 回収結果：有効回答数 2,368人
有効回答率 41.6%

【代表者聞き取り調査：代、住民アンケート調査：ア】

調査結果のポイント

集
落
活
動

- **集落活動の状況** 代 (P1,2)
- ・ 地区会の開催状況は、前回の調査結果とほぼ変わらず、**9割の集落で開催**されている。一方、**「10年前に比べて地域活動の参加者」が減ったとする集落は7割**。
- ・ 現在集落で行っている共同作業（活動）のうち、**多くの活動で今後10年間で継続が困難になると予想**されている。特に、農作業や山林の共同作業などが相対的に高い。

- **集落活動センターの取り組み、集落の活性化** 代ア (P3,4,5)
- ・ 集落活動センターの取り組みによって、**以前と比べて地域が良くなったと考える代表者は6割**。また、**8割近くの集落代表者が集落活動センターの取り組みに満足している**と回答。住民アンケートにおいても、**3割超の住民が地域が良くなった**と回答。
- ・ 一方、取り組んでいない地域では、今後、集落活動センターに取り組みたいとの希望は1割程度にとどまるなど、地域によって温度差が見られる状況。
- ・ 「今後（おおそ10年後）集落がどのようになっていると思うか」という質問では、**7割の集落代表者が「集落全体で衰退していると思う」と回答**。住民アンケートにおいても、**4割の住民が維持出来ないと回答**。
- ・ 集落の活性化に必要な取り組みとして、「移住者を受け入れる取組」「近隣集落と連携する取組」「地域の祭りやイベント行事など人との交流の取組」が上位。

- **地域への愛着や自慢** 代ア (P4)
- ・ 集落への**愛着や誇りを感じている集落代表者は8割以上**となり、前回調査と同様に、高い傾向を示している。その理由として、「自然や景色」「住みやすい環境」「集落の助け合い」が上位の意見として見られた。
- ・ 住民アンケートにおいて、**集落にこれからも住み続けたいという住民は7割を超えた**。

- **移住・定住の取り組み** 代 (P6,7)
- ・ Iターン者の受入について、**5割の集落が「受け入れたい」と回答**。Iターン者の受入に必要な支援として、「**空き家を有効活用できる支援**」という意見が多数を占めた。
- ・ 移住者が入居できそうな空き家は、4割の集落で「すぐに又は少し修繕すれば入居できそうな空き家がある」と回答があった。空き家の修繕に対する支援を求める声が5割近くあった。

- **飲料水・生活用品の確保、日常生活** 代ア (P7,9)
- ・ 飲料水を確保するうえでの課題では、「**施設の維持管理」「施設の老朽化」「施設維持・修繕の費用**」が上位の意見として見られた。
- ・ 食料品等の生活用品の確保は、8割以上の集落で、市町村内の商店で確保していると回答。今後の課題として、生活用品を確保するための移動手段がないなどの意見が多数。
- ・ 集落代表者、住民アンケートともに、住民が不便に感じていることでは、「**移動手段の確保**」「病院・診療所がない、または遠い」「食料等の生活用品の確保」が上位。

- **移動手段** 代ア (P8)
- ・ **公共交通機関の課題があるとする集落代表者は6割以上**となり、「バスの便が少ない」「バス停が遠い」「公共交通の手段が少ない」などの意見が上位を占める。
- ・ 住民アンケートでは、日常的に使う移動手段として、8割近くの住民が自家用車を活用。このうち、5割の住民が今後10年以内に利用ができなくなる不安があると回答。

- **鳥獣被害** 代 (P9)
- ・ 野生鳥獣による農林業被害について、**9割以上の集落において被害がある**とし、イノシシをはじめ、カラスやシカ、サルなどによる被害が広範囲の集落で確認された。
- ・ 農林業の被害対策への支援として、「**捕獲の強化**」「**狩猟者の確保**」「**防護柵の設置**」などの意見が多数を占めた。

生
活
環
境

安
全
安
心

中
山
間
の
産
業
づ
く
り

集
落
活
性
化

- **デジタル技術の活用分野** 代 (P10)
- ・ インターネット環境がないなど、**技術の活用以前に環境整備が必要**との声上位。そのほか、携帯電話の電波が入らない、高齢者向け講習の必要性などの意見もあった。
- ・ デジタル技術の活用分野として、遠隔診療、ドローンによる農薬散布やネット販売、防災関係のアプリ、安否確認、見守りなども意見としてあった。

- **見守り活動・あったかふれあいセンター** 代 (P11)
- ・ **5割を超える集落において見守り活動が行われている**が、課題として、**見守り出来る人が少なく、十分な活動ができないという意見が4割を超えた**。集落内で十分に見守りを行うためには、「**住民同士の支え合い**」「行政、社協、民生委員等の連携」という意見が多数を占めた。
- ・ **あったかふれあいセンターに期待することとして、「訪問支援」「困りごと相談」「見守り」「居場所づくり」という意見が多数を占めた**。

- **自主防災活動** 代 (P11)
- ・ **6割以上の集落で実施**。活動内容として、「**訓練**」が大半を占め、「**設備等の点検**」や「**講習会**」なども行われている。

- **産業** 代 (P12)
- ・ かつての主要な産業は、**農業・林業が多数を占め、現状は8割以上の集落で衰退**しているという回答があった。後継者は、4割の集落で存在しないと回答があった。
- ・ 今後の集落の産業振興に必要なものは、**担い手（人材）の確保が4割を占めた**。

- **農業・林業・漁業** 代 (P13,14)
- ・ 6割の集落で、持続的な農業生産に必要な労働力が、「**一部は確保できている**」又は「**確保できていない**」と回答。不足する労働力は、集落外の親戚などで対応している状況。**草刈りなどの維持管理労力の確保及び人材・後継者育成のニーズは高い**。
- ・ 農業所得を向上するためには、「**有望品目の導入**」「**直販所への出荷**」「**農産物等の加工**」といった取り組みが上位を占める。
- ・ 5割の集落で植林の必要性を感じていると回答。植林を進めるために必要な取り組みとして、「**針葉樹だけでなく広葉樹**」「**原木の生産・流通コストの削減**」などが上位。
- ・ 漁業後継者を増やす取り組みでは、「**UIターン者の積極的な受入と、その支援**」が上位。

- **集落代表者からみた課題、今後集落で取り組みたいこと** 代 (P15)
- ・ 集落代表者から見た課題として、「**人口減少**」「**地域に若者がいない**」「**集落活動の担い手不足**」「**集落長のなり手（リーダー）がいない**」が上位を占める。
- ・ 集落代表者として、今後取り組みたいこととして、「**外部からの移住促進**」「**自主防災活動**」「**見守り活動の充実**」「**農林水産業の振興**」「**地域の祭りの活性化**」が上位。

- **今後行政に力を入れてほしいこと** ア (P16)
- ・ 生活分野では、「**福祉・介護サービスの充実**」「**医療サービスの充実**」「**バス等の公共交通の運行**」「**野生鳥獣被害対策への支援**」「**生活用道路の確保**」が上位を占める。
- ・ 産業づくりでは、「**農業の振興**」「**移住促進**」「**林業の振興**」が上位。

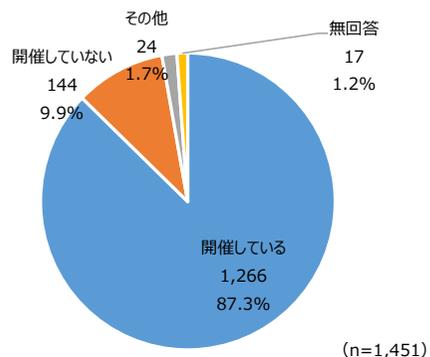
- **集落の生活に必要な取り組み** ア (P16)
- ・ 集落での生活に必要な取り組みとして、**小規模な集落への支援、特産品づくり、交流人口の拡大、空き家対策、鳥獣被害対策、急病時の連絡手段の確立**といった意見があった。
- ・ さらに、**移動手段の確保、子育て支援、山林の間伐、道路（農道、林道、生活道）の拡幅・維持、気候変動に対応したインフラ整備**などの意見があった。

(1) 集落活動

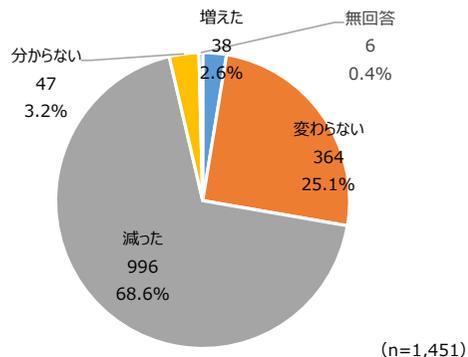
地区会の状況①

[代表者聞き取り 問1,4]

■ 地区会の開催状況



■ 10年前と比べた参加者の状況



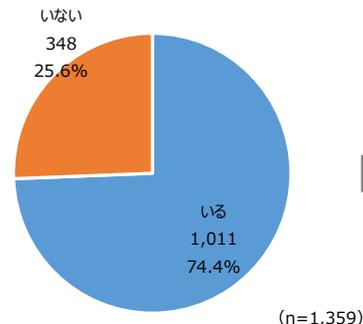
- ・ 前回の調査（H23）では、地区会（話し合い）は91.8%の集落で「開催している」と回答。
- ・ 今回の調査（R3）では、87.3%の集落で「開催している」と回答。一方、10年前と比べた地域活動への参加者は、68.6%の集落で「減った」と回答。

世話役・後継者の存在①

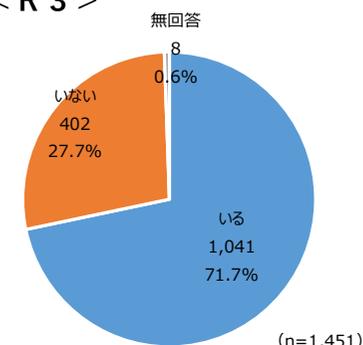
[代表者聞き取り 問5]

■ 世話役（リーダー）の有無

< H 2 3 >



< R 3 >



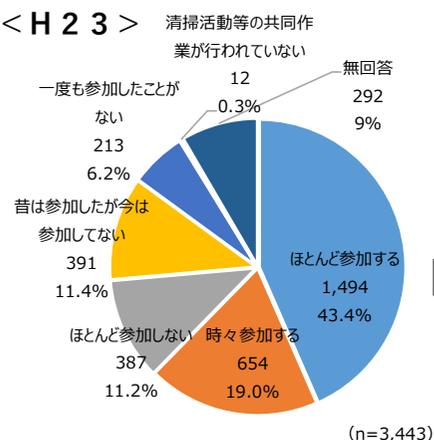
- ・ 前回の調査では、世話役（リーダー）の有無は、74.4%の集落で「いる」と回答。
- ・ 今回の調査でも、71.7%の集落で「いる」と回答。

地区会の状況②

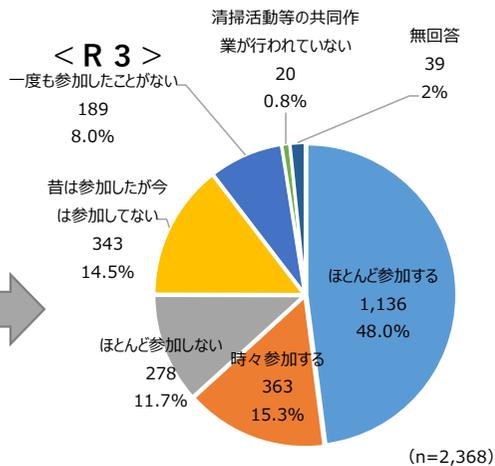
[住民アンケート 問8]

■ 住民の共同作業への参加状況

< H 2 3 >



< R 3 >



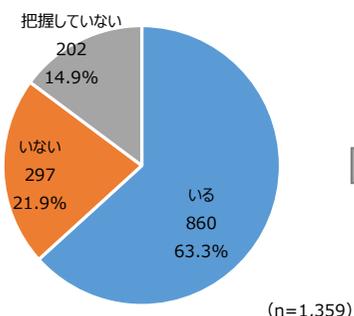
- ・ 前回の調査では、共同作業に62.4%の住民が「(ほとんど又は時々)参加する」と回答。
- ・ 今回の調査でも、63.3%の住民が「(ほとんど又は時々)参加する」と回答。

世話役・後継者の存在②

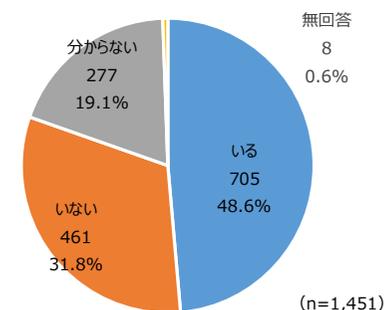
[代表者聞き取り 問6]

■ 世話役の後継者の有無

< H 2 3 >



< R 3 >



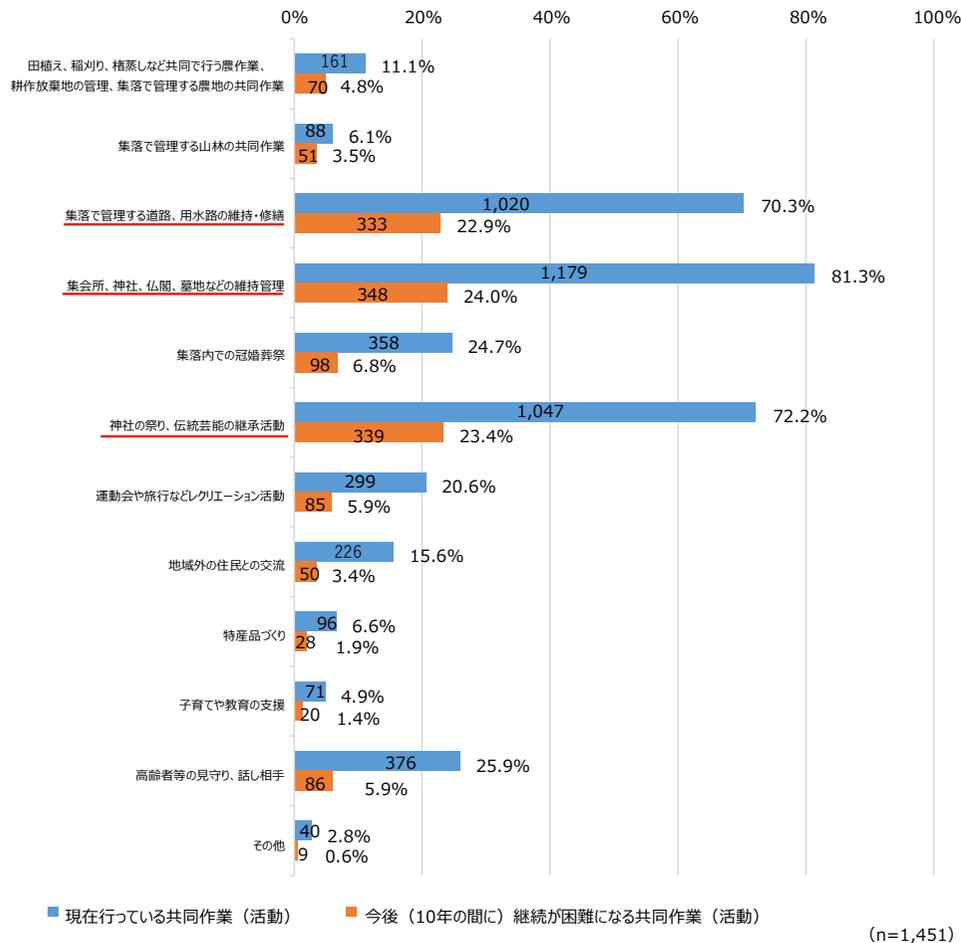
- ・ 前回の調査では、世話役の後継者は63.3%の集落で「いる」と回答。
- ・ 今回の調査では、世話役の後継者については、48.6%の集落で「いる」と回答。

（1）集落活動

集落活動の状況①

〔代表者聞き取り 問9〕

〔複数回答可〕



【意見例】

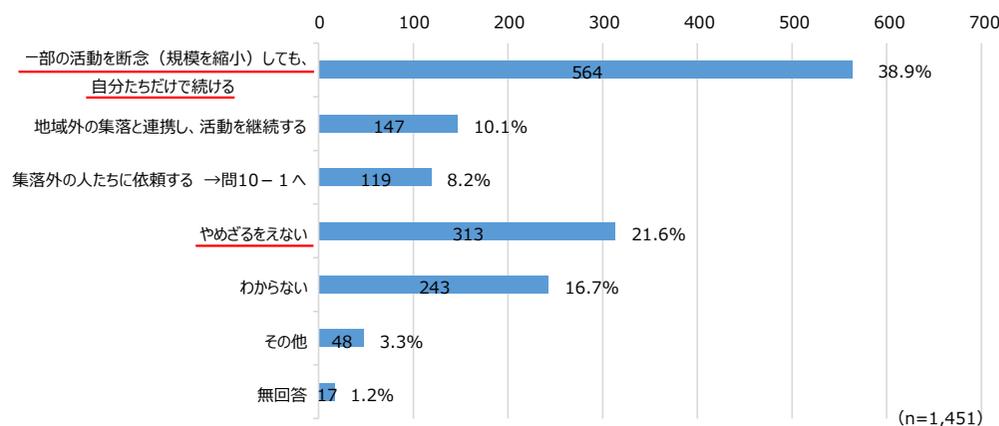
- 人口減及び高齢化により、祭りの継続やお宮、農地、水の管理等集落の活力や機能の維持が難しくなっている。
- 普段は集落外に住んでいても祭りの時には出身者等が来て手伝ってくれるような仕組みがあれば非常に助かる。
- 地域イベントの重要性を感じている。

- 集落で現在行っている共同作業（活動）では、「集会所、神社・仏閣などの維持管理」（81.3%）「神社の祭り、伝統芸能の継承活動」（72.2%）が上位。
- このうち、今後10年間に継続が困難になる共同作業（活動）では、農作業や山林の共同作業などが相対的に高い。

集落活動の状況②

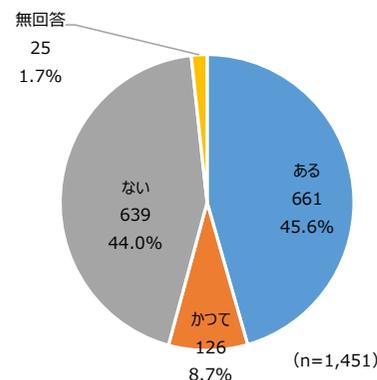
〔代表者聞き取り 問7,10〕

■ 集落活動の継続が困難になった場合の対応



- 前回の調査では、60.5%の集落で「自分たちだけで続ける」と回答。8.0%の集落で「やめざるをえない」と回答。
- 今回の調査では、38.9%の集落で「自分たちだけで続ける」、21.6%の集落で「やめざるをえない」と回答。「集落外の人たちに依頼する」と回答した集落では、依頼先として「行政機関」（52.9%）という回答が最も多い。

■ 活動団体の状況



【主な活動団体】

- 地区・環境を守る会 : 284件
- 祭り・イベント活動グループ : 268件
- 健康づくりグループ : 157件
- 女性主体のグループ（婦人会 等） : 142件
- 高齢者主体のグループ（老人会、敬老会） : 119件
- J A 関連団体（女性部・青壮年部 等） : 22件

【主な活動内容】

- イベント開催や地域活動の手伝い : 304件
- 趣味・食事会・旅行・交流会 等 : 237件
- 清掃・美化活動 : 211件
- 体操・運動（百歳体操・いきいき体操 等） : 153件
- 高齢者の世話・福祉活動 : 91件

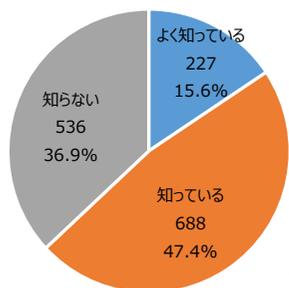
- 地区会以外の活動団体について、45.6%の集落が「ある」と回答。一方、52.7%の集落で「ない」または「かつてはあったが今はない」と回答。

(1) 集落活動

集落活動センター

[代表者聞き取り 問8] [住民アンケート 問13,14,16]

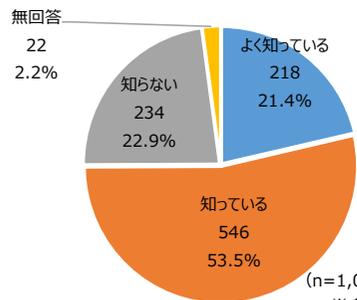
■ 集落活動センターの認知度



(n=1,451) 代表者聞き取り調査

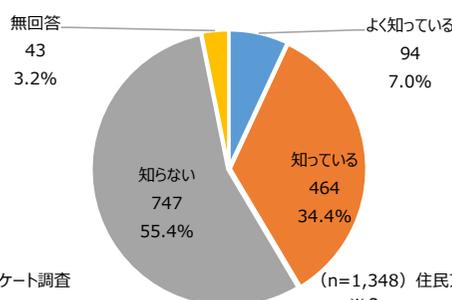
- ・ 集落活動センターについて、代表者は63.0%の集落で「知っている」と回答。
- ・ アンケートでは、集落活動センターがある地域では、74.9%の住民が、ない地域では41.4%の住民が「よく知っている」「知っている」と回答。

<集落活動センターがある地域>



(n=1,020) 住民アンケート調査 ※1

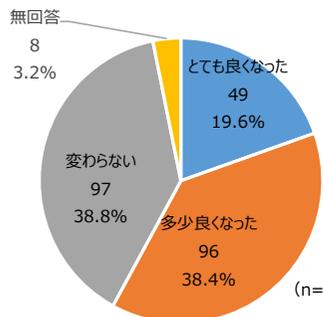
<集落活動センターがない地域>



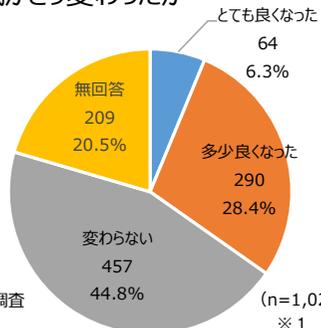
(n=1,348) 住民アンケート調査 ※2

<集落活動センターがある地域>

■ 集落活動センターの取り組みにより、地域がどう変わったか



(n=250) 代表者聞き取り調査 ※3



(n=1,020) 住民アンケート調査 ※1

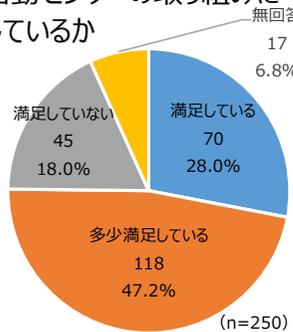
■ 集落活動センターの課題

・人材の育成・確保：83件 ・地域住民の参画意識：38件 ・収入の確保：16件 ・情報発信：4件

- ・ 集落活動センターがある集落のうち、58.0%の集落で地域が「とても又は多少」良くなった」と回答。また、アンケートにおいても、34.7%の住民は地域が「とても又は多少」良くなった」と回答。

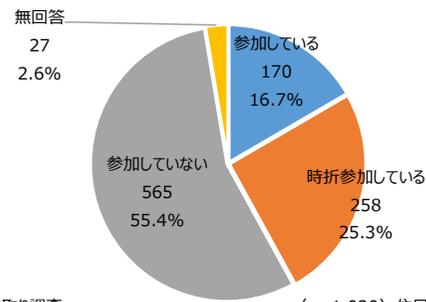
<集落活動センターがある地域>

■ 集落活動センターの取り組みに満足しているか



(n=250) 代表者聞き取り調査 ※3

■ 集落活動センターへの参加状況

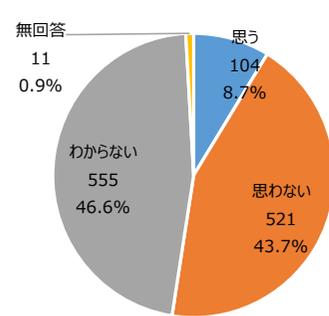


(n=1,020) 住民アンケート調査 ※1

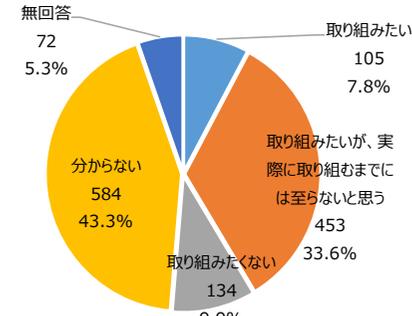
- ・ センターの取組について、75.2%の集落で「満足している」「多少満足している」と回答。
- ・ アンケートでは、センターへの参加について、42.0%の住民が「参加している」「時折参加している」と回答。

<集落活動センターに取り組んでいない地域>

■ 集落活動センターに取り組んでみたいか



(n=1,191) 代表者聞き取り調査 ※4



(n=1,348) 住民アンケート調査 ※2

【主な意見:センターに取り組んでみたいか】

- ・ 集落の維持・地域の活性化のため取り組んでみたいと思う : 39件
- ・ 高齢化で活動が難しい、担い手がないため、取り組んでみたいと思わない : 202件
- ・ 地域をまとめるリーダーがないため、取り組んでみたいと思わない : 16件
- ・ 集落活動センターのことが分からない、活動内容が分からない : 45件

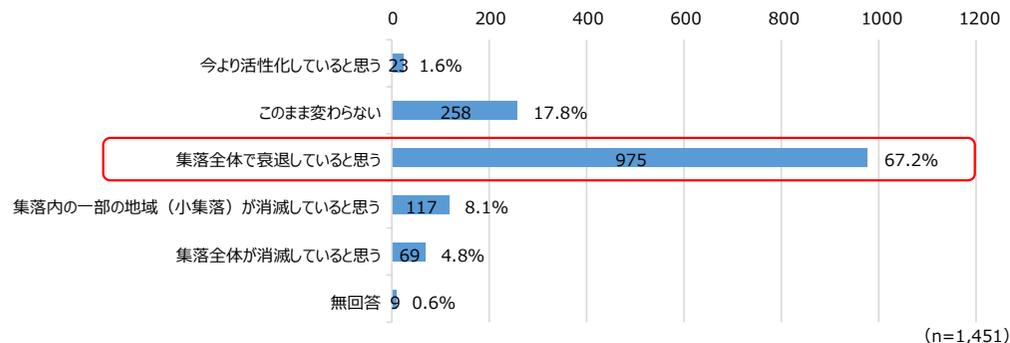
- ・ 集落活動センターに取り組んでいない集落では、8.7%の集落が今後取り組みたいと「思う」と回答。43.7%の集落が今後取り組みたいと「思わない」と回答。
- ・ アンケートでは、集落活動センターの取組について、41.4%の住民が「取り組みたい」「取り組みたいが、実際に取り組むまでには至らない」と回答。一方、「取り組みたくない」と回答した理由として、負担感を挙げる声が多。

（1）集落活動

集落の将来像①

[代表者聞き取り 問13]

■ 今後（おおそ10年後）、集落がどのようになっていくと思うか



【意見例】

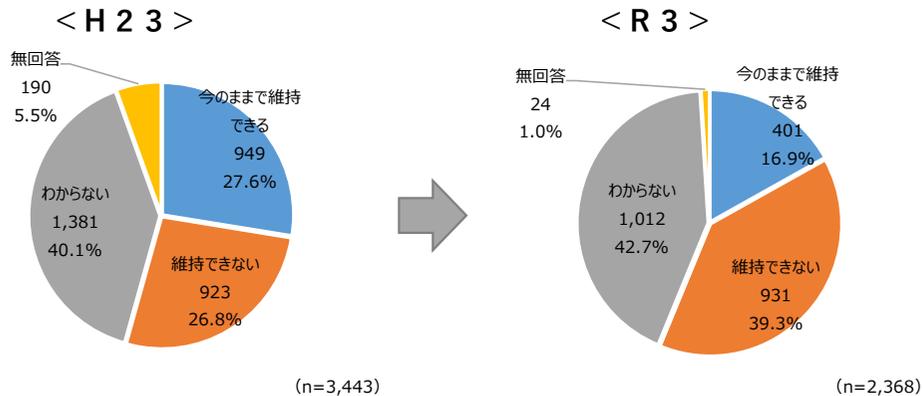
- ・ 集落活動センターの取り組みにより今より活性化していると思う。
- ・ 人口や世帯が減少する、高齢化が進む、若者や後継者がいないなどの理由から衰退あるいは消滅していると思う。

- ・ 67.2%の集落で「集落全体で衰退していると思う」と回答。一方、17.8%の集落で「このまま変わらない」と回答。

集落の将来像②

[住民アンケート 問10]

■ 今後の集落活動の維持

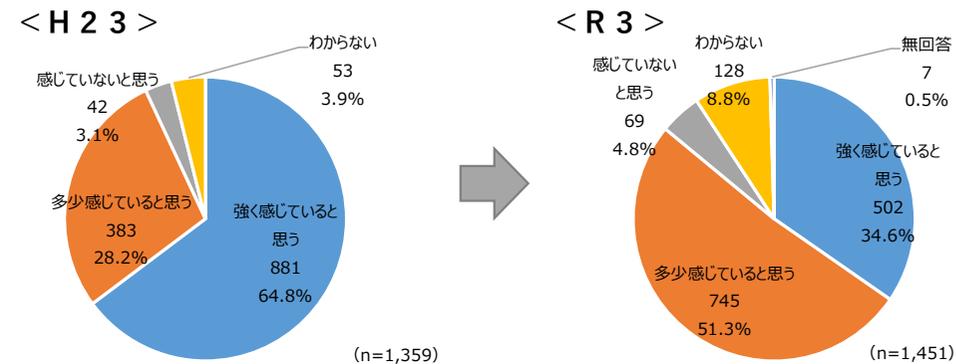


- ・ 前回の調査では、27.6%の住民が「今のままで維持できる」、26.8%の住民が「維持できない」と回答。
- ・ 今回の調査では、16.9%の住民が「今のままで維持できる」、39.3%の住民が「維持できない」と回答。

地域への愛着・自慢

[代表者聞き取り 問11,12]

■ 集落への「愛着」や「誇り」を感じているか

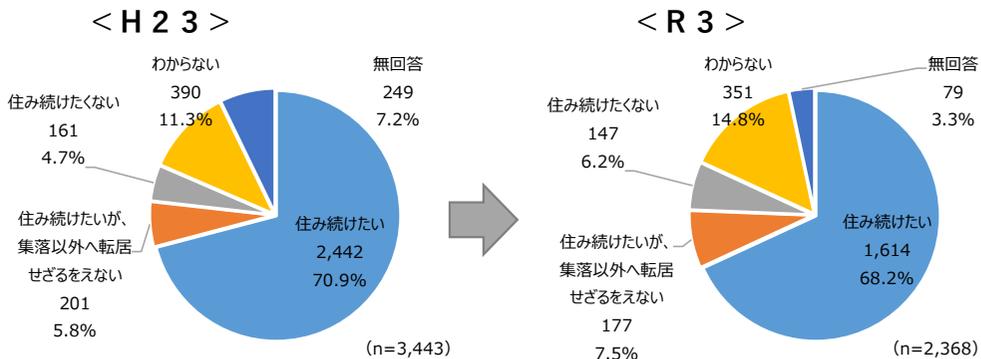


- ・ 前回の調査では、集落への「愛着」や「誇り」について、93.0%の集落で「（強く又は多少）感じていると思う」と回答。主なものとして、「住みやすい環境」「自然や景色」「人情」が上位。
- ・ 今回の調査では、集落への「愛着」や「誇り」について、85.9%の集落で「（強く又は多少）感じていると思う」と回答。「自然や景色」「住みやすい環境」「集落のまとまり、助け合い」が上位。

定住の意向

[住民アンケート 問41,43]

■ 集落にこれからも住み続けたいか



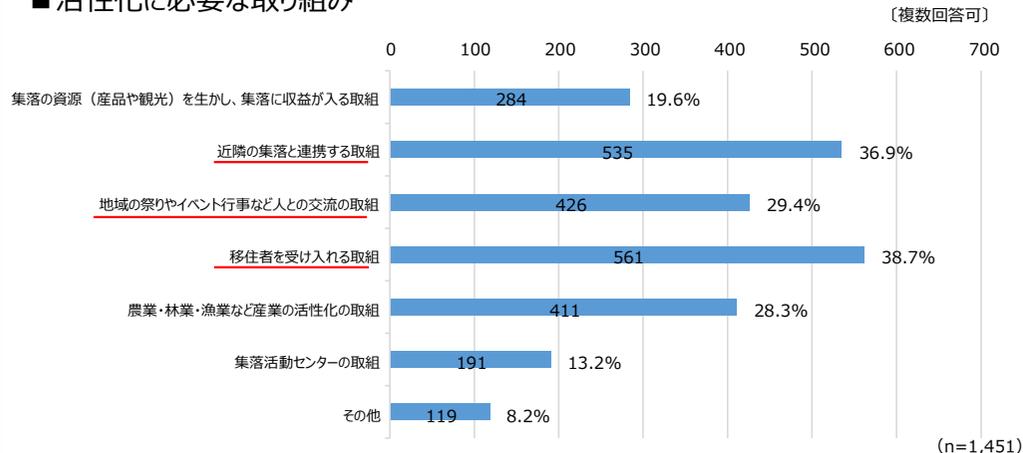
- ・ 前回の調査では、70.9%の住民が「住み続けたい」と回答。
- ・ 今回の調査でも、68.2%の住民が「住み続けたい」と回答。「住み続けたいが、集落外へ転居せざるをえない」を選んだ理由について、「医療や福祉のサービスが受けにくい」（39.0%）「緊急時や災害時に孤立する不安がある」（35.6%）が上位。

（1）集落活動

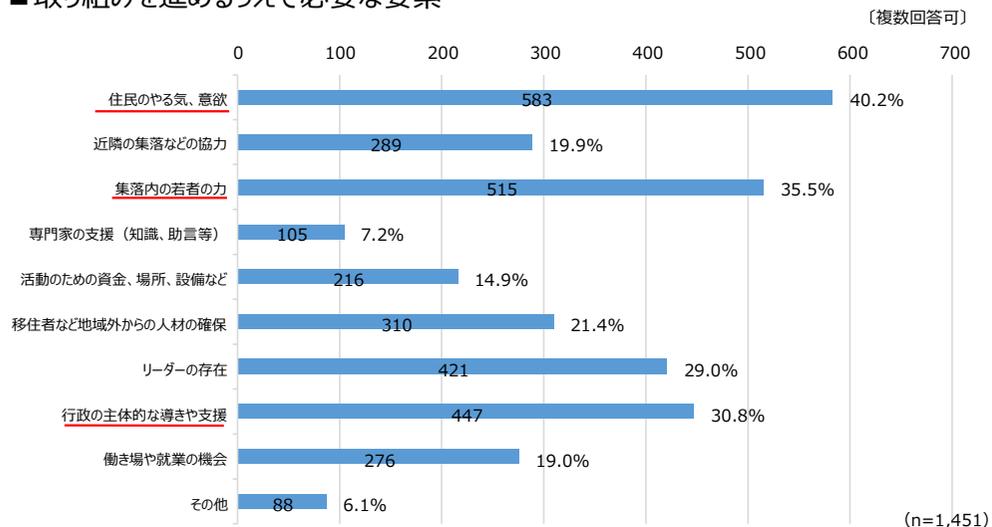
集落の活性化に必要なもの

[代表者聞き取り 問15,16]

■ 活性化に必要な取り組み



■ 取り組みを進めるうえで必要な要素



【意見例】

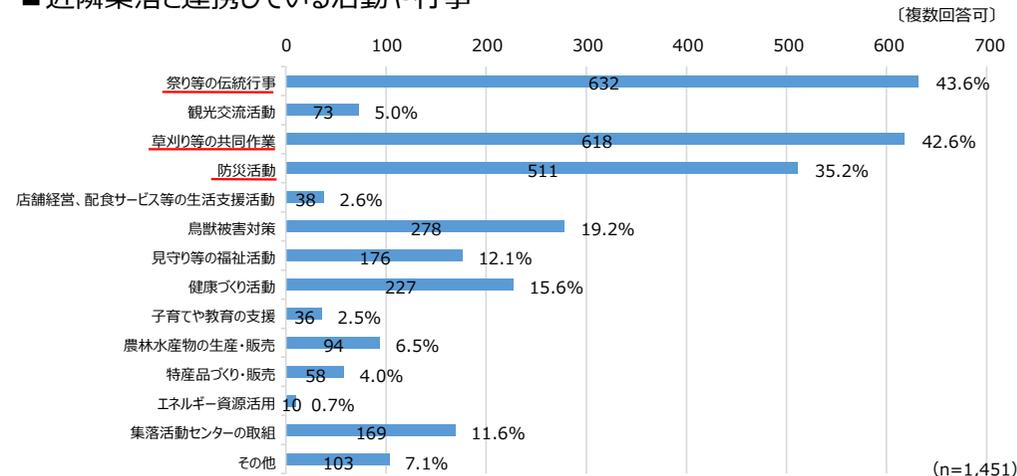
- ・ インターネット環境が整っていない。光回線がないと若者は絶対に来ない。住もうと思わない。
- ・ 人が減ってきて維持できなくなると思うので、集落同士でまとまって活動せざるを得ない。

- ・ 集落の活性化に必要な取組として、「移住者の受け入れ」（38.7%）「近隣の集落と連携する取組」（36.9%）「地域の祭りやイベント行事など人との交流の取組」（29.4%）が上位。
- ・ 集落内で必要な要素では、「住民のやる気、意欲」（40.2%）「集落内の若者の力」（35.5%）「行政の主体的な導きや支援」（30.8%）が上位。

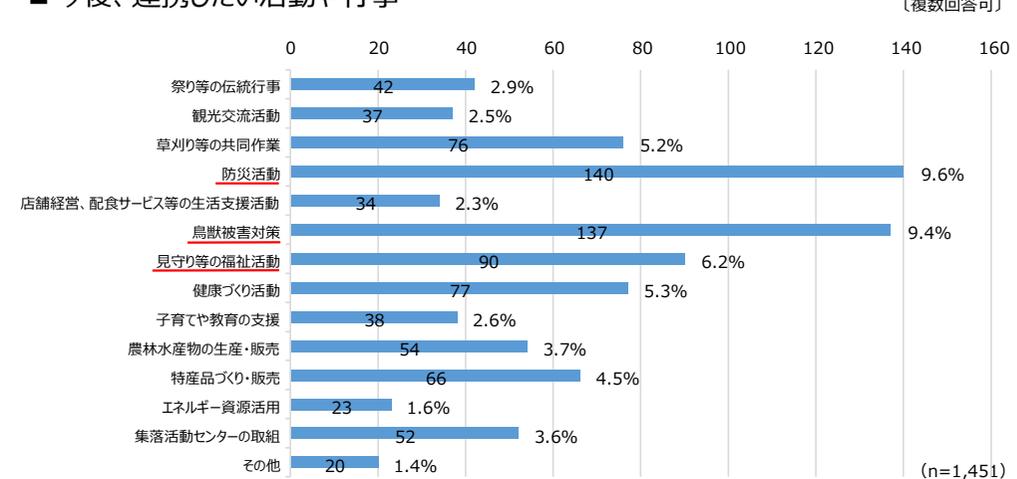
近隣集落との連携

[代表者聞き取り 問19]

■ 近隣集落と連携している活動や行事



■ 今後、連携したい活動や行事



【意見例】

- ・ 高齢化、人口減少に陥っている現在、小さな集落だけでは行政も成り立たないので、検討すべき課題だと思う。近隣集落との連携は必要になってくるのではと考える。

- ・ 近隣の集落と連携している活動や行事では、「祭り等の伝統行事」（43.6%）「草刈りなどの共同作業」（42.6%）「防災活動」（35.2%）が上位。
- ・ 今後、近隣の集落と連携したい活動や行事では、「防災活動」（9.6%）「鳥獣被害対策」（9.4%）「見守り等の福祉活動」（6.2%）が上位。

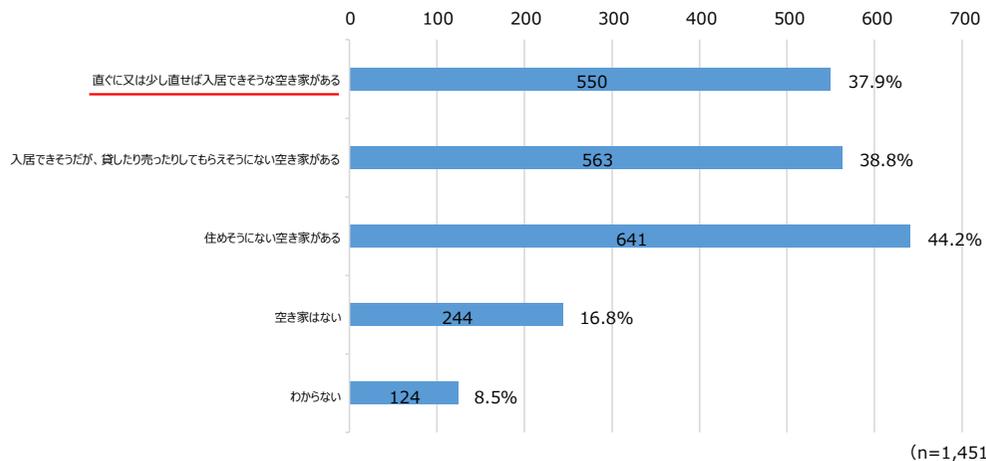
（1）集落活動

空き家の状況

[代表者聞き取り 問20]

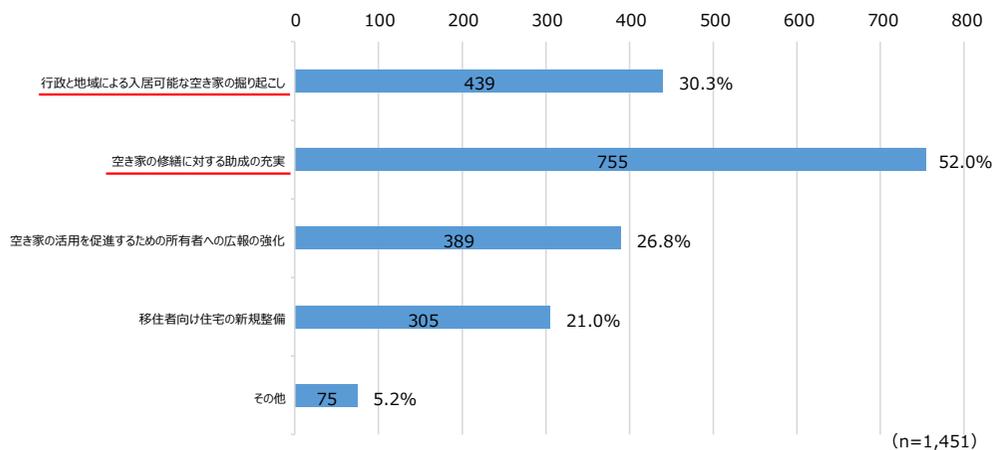
■ 集落内に移住者が入居できそうな空き家はあるか

(複数回答可)



■ 移住者の住宅確保に必要な施策

(複数回答可)

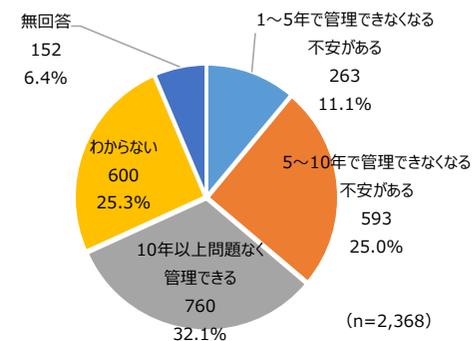


- 移住者が入居できそうな空き家について、37.9%の集落で「直ぐに又は少し直せば入居できそうな空き家がある」と回答。
- 移住者が入居できる住宅を確保するために必要な施策では、「空き家の修繕に対する助成」(52.0%)「入居可能な空き家の掘り起こし」(30.3%)が上位。

家の管理

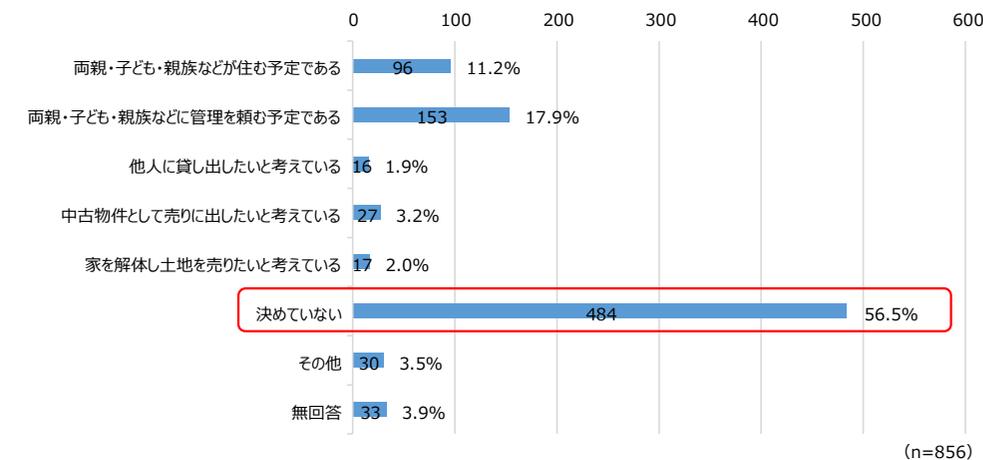
[住民アンケート 問46,47]

■ 家の管理について不安はあるか



- 今住んでいる家の管理について、36.1%の住民が「(1～5年又は5～10年)以内に管理できなくなる不安がある」と回答。

■ 今後の家の管理について決めているか



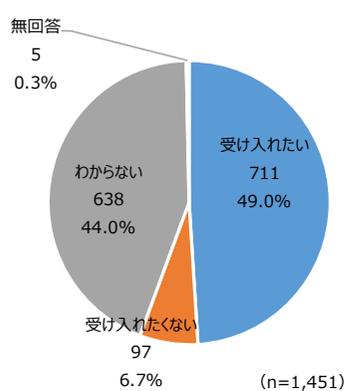
- 「(1～5年又は5～10年)以内に管理できなくなる不安がある」と回答した住民のうち、家の管理をどうするかについては、56.5%が「決めていない」と回答。

（1）集落活動

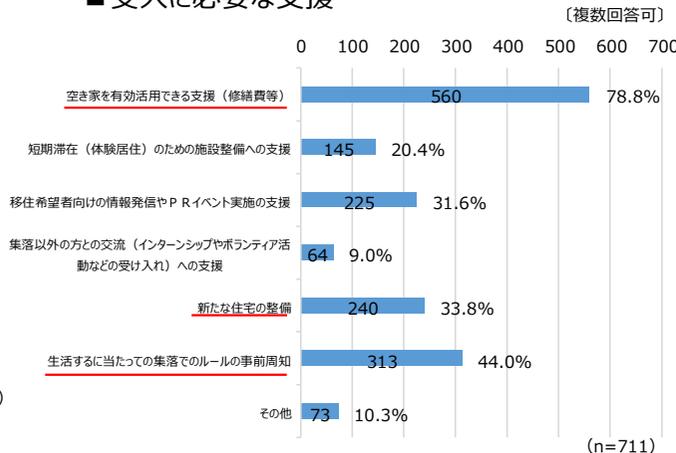
Iターン移住者の受入

[代表者聞き取り 問22]

■ Iターン移住者の受入



■ 受入に必要な支援

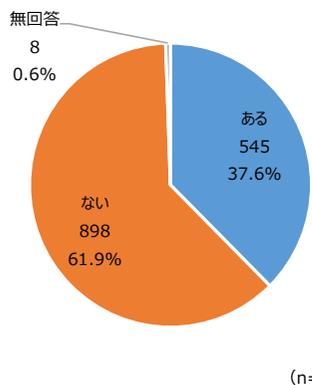


- 今回の調査では、49.0%の集落で「受け入れたい」と回答。
- Iターン者の受入に必要な支援として、「空き家を有効活用できる支援」（78.8%）「集落でのルールの事前周知」（44.0%）「新たな住宅の整備」（33.8%）が上位。

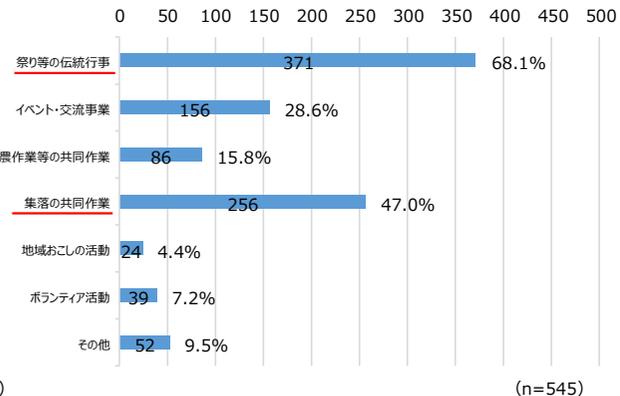
集落出身者との交流

[代表者聞き取り 問23]

■ 集落出身者との交流



■ 交流する行事



- 集落出身者との交流について、37.6%の集落で「ある」と回答。出身者との交流する行事では、「祭り等の伝統行事」（68.1%）「集落の共同作業」（47.0%）が上位。

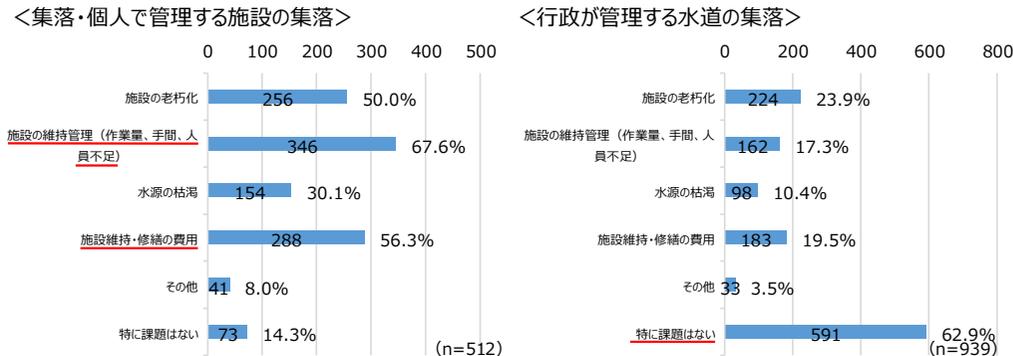
（2）生活環境

飲料水の確保

[代表者聞き取り 問25]

■ 飲料水を確保していくうえでの課題（飲料水の確保方法別）

[複数回答可]



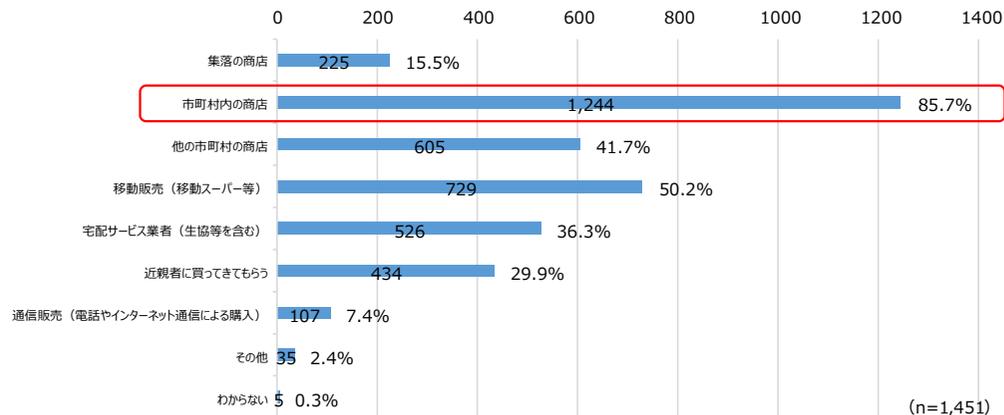
- 前回の調査では、飲料水を確保するための課題（集落や個人管理に限る）として、「施設の維持管理」（52.7%）「高齢化等による管理人員の不足」（41.0%）が上位。
- 今回の調査では、「施設の維持管理」（67.6%）「施設の維持・修繕の費用」（56.3%）が上位。
※集落・個人で管理する施設の集落で比較

生活用品の確保

[代表者聞き取り 問26,27]

■ どのような方法で生活用品を確保しているか

[複数回答可]



- 前回の調査では、生活用品の確保について、84.3%の集落で「市町村内の商店」と回答。
- 今回の調査でも、「市町村内の商店」（85.7%）が上位。
- 将来仮にお店が無くなった場合の対応として、「他の市町村の商店」（64.4%）「移動販売」（56.1%）「宅配サービス業者」（47.8%）が上位。一方、生活用品を確保するための課題として「移動手段がない」といった意見もあった。

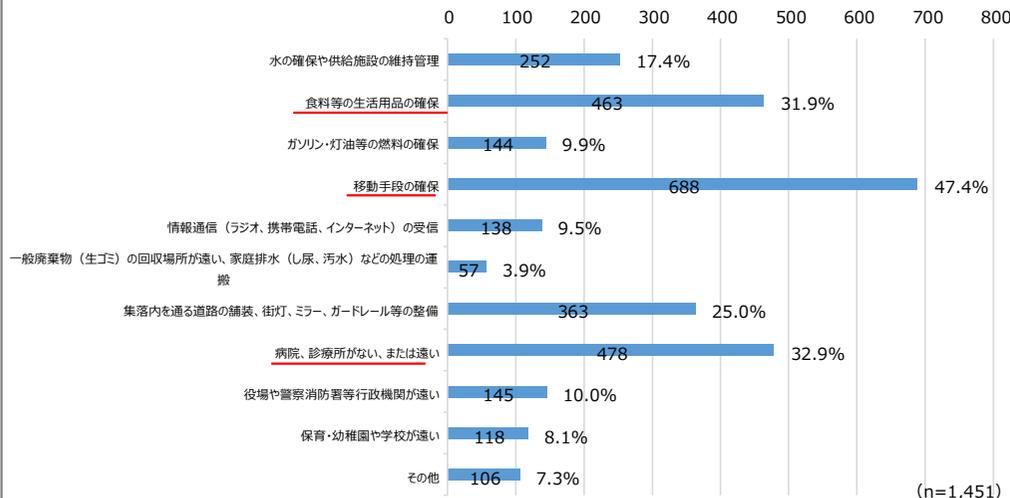
（2）生活環境

生活環境①

[代表者聞き取り 問32]

■ 日常生活で不便に感じていること

〔複数回答可〕



【意見例】

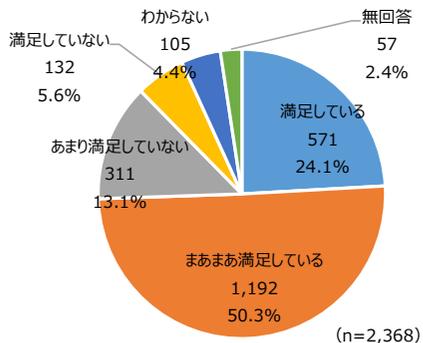
- 生活用品の確保について、移動販売などあるが、選ぶ楽しみが減る。必要なものが必要なときに買える安心感が昔はあったが今は難しい。
- 高齢者の移動手段が無いわけではないが、本来なら自由に買い物をしたいと思う。最低限のことが普通になっていくのは良くないと思う。
- 町民バスはあるが、朝夕2回で日曜・祝日、学校休校日は無く、高齢者などは買い物弱者となる。
- デマンドバスはあるが、使いにくい。タクシー代も高い。
- 高齢者がネット等を簡単に使えるような勉強会などが必要。

日常生活の中で不便に感じていることとして、「移動手段の確保」（47.4%）「病院、診療所がない、または遠い」（32.9%）「食料等の生活用品の確保」（31.9%）が上位。

生活環境②

[住民アンケート 問22]

■ 集落での暮らしに満足しているか

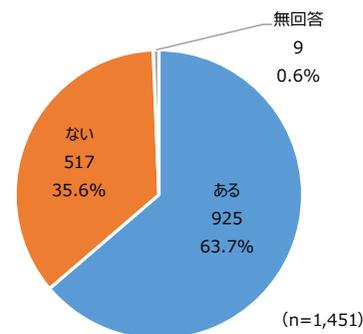


集落での暮らしに、74.4%の住民が「満足している」「まあまあ満足している」と回答。

移動手段①（公共交通機関）

[代表者聞き取り 問28]

■ 地域の公共交通機関の課題



【主な意見】

- バスの便が少ない : 478件
- バス停が遠い : 214件
- 公共交通の手段が少ない : 99件
- タクシーがない、少ない : 71件

【意見例】

- バスの便数が少ないので、利用したくても利用するのが難しい。

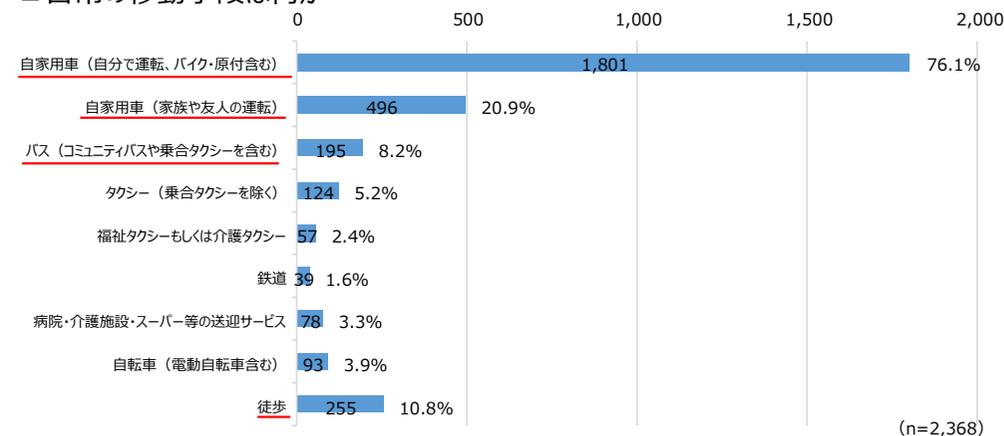
地域の公共交通機関について、63.7%の集落で課題は「ある」と回答。課題として、「バスの便が少ない」「公共交通の手段が少ない」といった意見もあった。

移動手段②（移動手段の状況等）

[住民アンケート 問24]

■ 日常の移動手段は何か

〔複数回答可〕



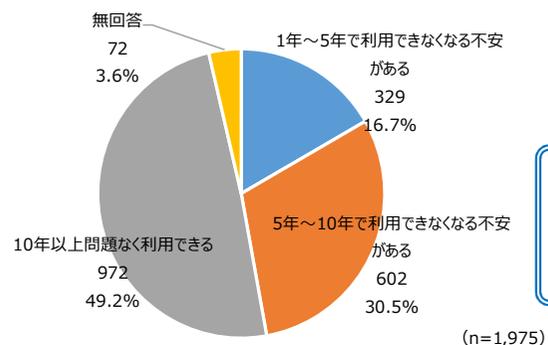
日常の移動手段では、「自家用車（自分で運転、バイク・原付含む）」（76.1%）が最も多く、次いで「自家用車（家族や友人が運転）」（20.9%）「徒歩」（10.8%）「バス（コミュニティバスや乗り合いタクシー含む）」（8.2%）が上位。

（2）生活環境

移動手段③（移動手段の状況等）

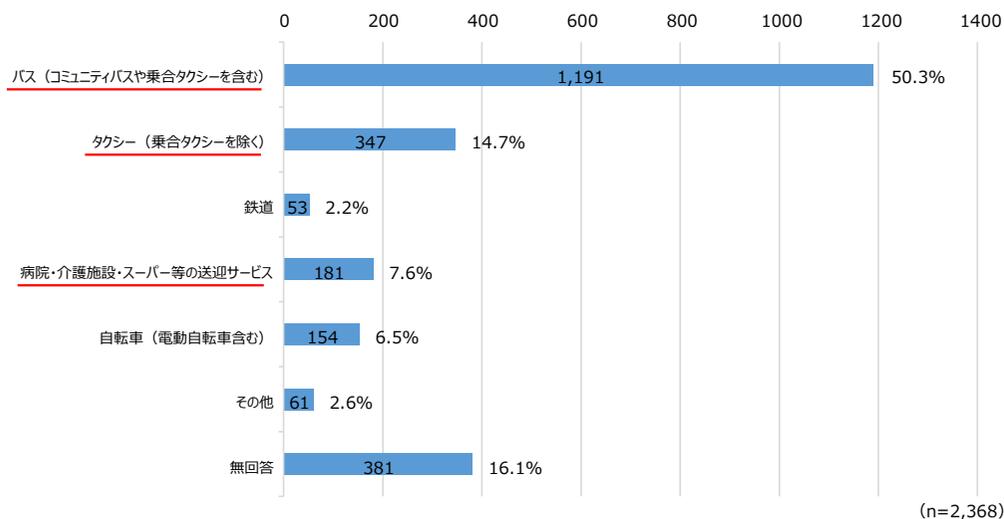
[住民アンケート 問26~28]

■ 今後、自家用車を継続して利用できるか



・ 自家用車を利用する住民のうち47.2%の方が今後「（1~5年又は5年~10年以内に）利用できなくなる」と回答。

■ 自家用車以外の移動手段に切り替える場合の手段について

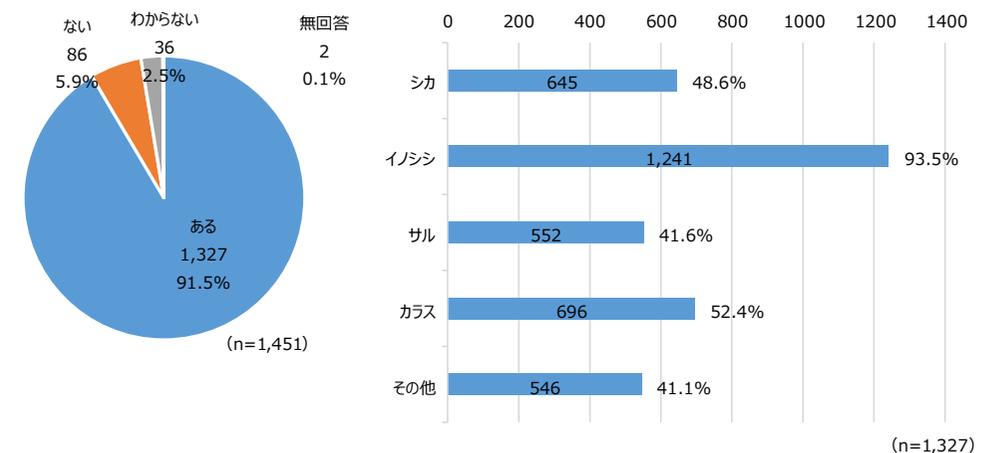


- 移動手段を切り替える場合、「バス（コミュニティバスや乗り合いタクシー含む）」（50.3%）「タクシー（乗り合いタクシー除く）」（14.7%）「病院・介護施設・スーパー等の送迎サービス」（7.6%）が上位。
- 移動手段を使いやすくするために必要な取り組みとして、「自宅の近くでの乗車し、目的地に移動出来ること」（68.0%）「利用しやすい運賃設定」（46.7%）「到着したい時間に目的地に着くこと」（38.7%）が上位。

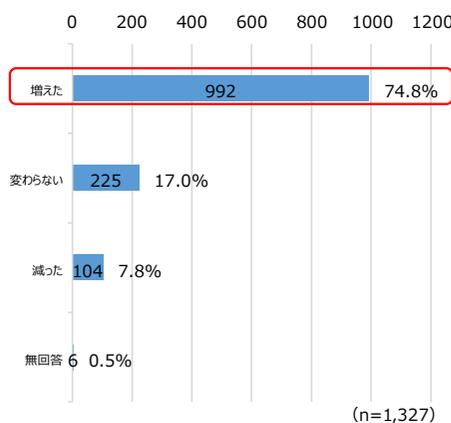
鳥獣被害

[代表者聞き取り 問31]

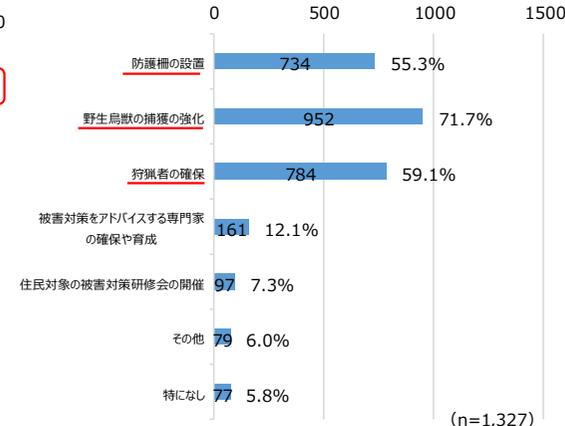
■ 野生鳥獣による農林業被害



■ 10年前に比べて被害は増えたか



■ 被害対策に必要な支援



【意見例】

- 地区・集落単位で柵を立てないと個人でやっても意味が無い。

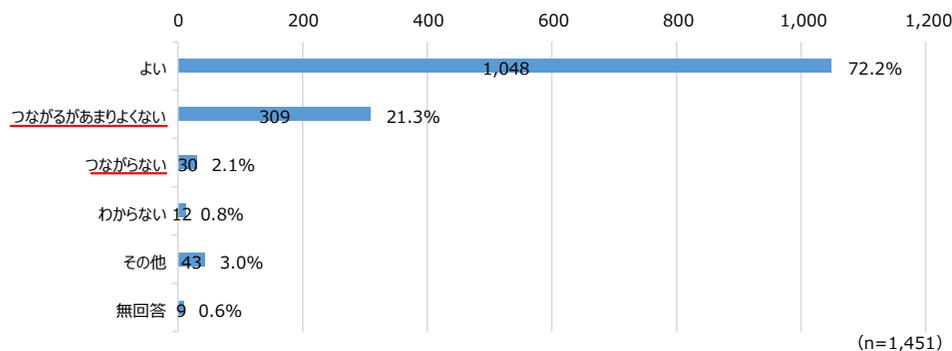
- 前回の調査では、鳥獣による農林業被害について、94.3%の集落で「ある」と回答。
- 今回の調査でも、91.5%の集落で「ある」と回答。また、74.8%の集落で、「10年前に比べて被害が増えた」と回答。
- 行政に力を入れてほしい対策としては、「野生鳥獣の捕獲の強化」（71.7%）「狩猟者の確保」（59.1%）「防護柵の設置」（55.3%）が上位。

(2) 生活環境

情報通信

[代表者聞き取り 問29,30]

■携帯電話（スマートフォン含む）の受信状況



【意見例】

・ 家には携帯電話の電波が入らない。家の外に出れば1社は繋がるが、その他は繋がらない。

■デジタル技術の活用分野

【主な意見】

- ・ 技術の活用以前に環境整備が必要 : 69件 (光回線がない、インターネット環境がない)
- ・ 医療・介護分野での活用 : 65件 (在宅診療、遠隔診療)
- ・ 産業分野での活用 : 62件 (ドローンによる農業散布、ネット販売)
- ・ 使いこなせない : 55件 (高齢者には難しい)
- ・ 防災分野での活用 : 47件 (防災関係のアプリ、通知機能)
- ・ ソフト面での支援が必要 : 23件 (高齢者等へのデジタル技術活用の講習)
- ・ 福祉分野での活用 : 21件 (安否確認、見守り)

【意見例】

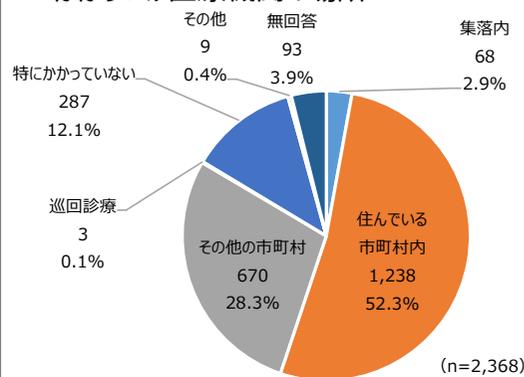
- ・ 買い物手段、高齢者の見守り（異常を察知できる機能）としてデジタル技術を活用したい。
- ・ インターネットが使えない集落は生き残れない。環境整備とともに、講習等、高齢者がデジタル技術を活用できるような仕組みが必要。
- ・ 光ファイバーやネット環境がないので、そこから整備してもらいたい。
- ・ インターネットの技術が入ると仕事などいろいろできて良いと思う。
- ・ 生活面での新しい技術があれば使っていきたい。
- ・ 車の自動運転技術が確立できれば取り入れたい。

・ 前回の調査では、携帯電話について、24.8%の集落で「受信状態が悪い」と回答。
 ・ 今回の調査では、23.4%の集落で「つながるがあまりよくない」「つながらない」と回答。また、今後のデジタル技術の活用分野として、「安否確認」や「防災関係のアプリ」といった意見もあった。

医療機関

[住民アンケート 問36]

■かかりつけ医療機関の場所



・ 主なかかりつけ医療機関の場所について、「住んでいる市町村内」(52.3%) 「その他の市町村」(28.3%) が上位。

子育て

[住民アンケート 問37,38]

■良い点や自慢できる点

【主な意見】

- ・ 自然が豊か : 118件 (自然とふれあえる、空気が良い)
- ・ 地域全体での見守り・助け合い : 88件 (地域の子供として全体で見守る)
- ・ 教育環境等の良さ : 48件 (ICT教育の導入、子育て支援センター)
- ・ 子育てにかかる費用支援の充実 : 27件 (医療費・保育料の無償化)

■困っていることや、行政に対して望むこと

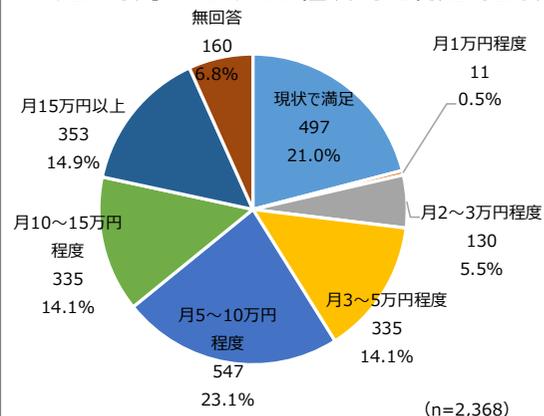
【意見例】

- ・ 児童・生徒数の減少 : 88件 (子育て世帯が少ない、近隣に遊び相手がない)
- ・ 通学の移動手段 : 74件 (通学が不便、スクールバスの充実)
- ・ 教育施設、病院がない・少ない・遠い : 59件 (保育所がない、病院(小児科)が遠い)
- ・ 子育て・教育施策の充実 : 33件 (教育環境の向上、少子化対策)

収入（経済的な満足）

[住民アンケート 問39]

■あと、毎月いくらあれば経済的に満足できるか



・ 経済的な満足について、「月5～10万円程度」(23.1%) 「現状で満足」(21.0%) 「月15万円以上」(14.9%) が上位。

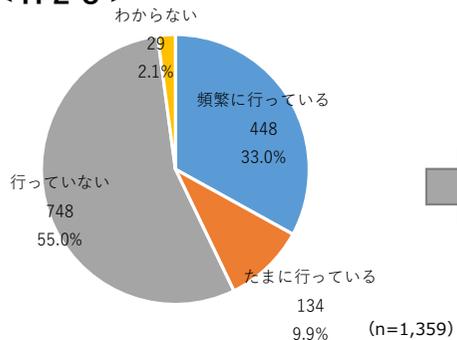
(3) 安全安心

見守り活動

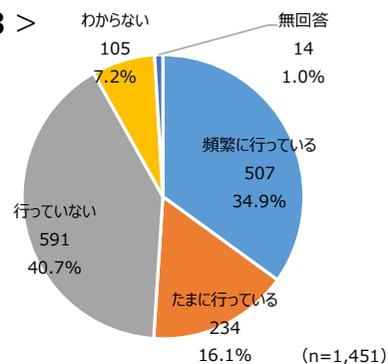
[代表者聞き取り 問33~35]

■ 集落の見守り活動について

< H 2 3 >

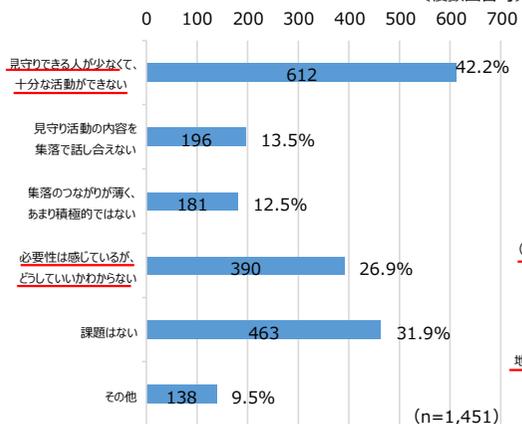


< R 3 >



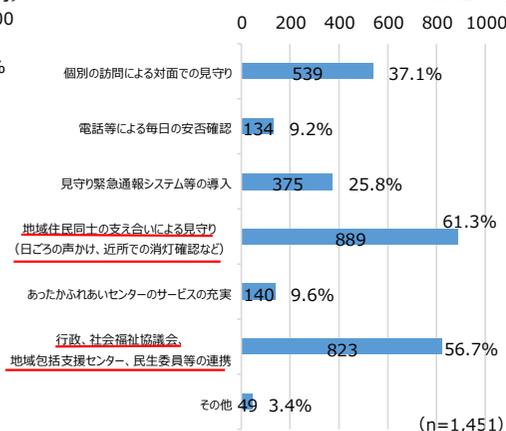
■ 見守り活動をするうえでの課題

[複数回答可]



■ 見守りを行っていくために充実させるサービス・取組

[複数回答可]



【意見例】

- ・ 見守り者が高齢化している。
- ・ 地域において十分な話し合いができていない。

- ・ 前回の調査では、集落の見守り活動について、42.9%の集落で「（頻繁に又はたまに）行っている」と回答。
- ・ 今回の調査でも、51.0%の集落で「（頻繁に又はたまに）行っている」と回答。
- ・ 見守り活動をするうえでの課題として、「見守りできる人が少なく十分な活動ができない」（42.2%）「必要性は感じているが、どうしていいかわからない」（26.9%）が上位。
- ・ 集落で十分に見守りを行っていくために充実させる取組として、「地域住民同士の支え合いによる見守り（日頃の声かけ等）」（61.3%）「行政、社協、地域包括支援センター、民生委員等の連携」（56.7%）が上位。

あったかふれあいセンター

[代表者聞き取り 問37]

■ あったかふれあいセンターに期待すること

【主な意見】

- ・ 訪問支援 : 171件
- ・ 困りごと相談 : 128件
- ・ 見守り : 119件
- ・ 子どもや支援を必要とする方の居場所づくり : 111件
- ・ あったかふれあいセンターのことやその活動内容が分からない : 86件
- ・ 現状で満足している : 39件

【意見例】

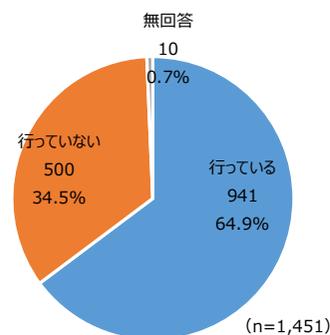
- ・ センターに来る人だけでなく、地域の近くまで来ての確認や声かけ。
- ・ 送迎をより充実させて支援を必要とする高齢者等の居場所づくりをあったかふれあいセンターに期待する。

- ・ 前回の調査では、あったかふれあいセンターに期待することとして、「買い物代行サービス」「お弁当の配達」「今のサービスの継続」といった意見があった。※自由回答
- ・ 今回の調査では、「訪問支援」「困りごと相談」「見守り」「子どもや支援を必要とする方の居場所づくり」といった意見が上位。※自由回答

自主防災活動

[代表者聞き取り 問38]

■ 自主防災活動の状況



【主な意見】

- ・ 訓練の実施 : 645件
- ・ 設備等の点検 : 185件
- ・ 講習会の実施 : 181件
- ・ 話し合い : 129件
- ・ 見回り活動 : 54件
- ・ 高齢化で実施が困難 : 11件 (「行っていない」と回答した集落)

【意見例】

- ・ 公民館に防災用品を配置したが、皆、使い方が分からない。
- ・ 備蓄食料をもらうのに避難所等へ取りに行く必要があるが、災害時に行けるかが課題。届けてもらう仕組みが必要。地区で（備蓄を）購入すべき。
- ・ 高齢者のことを考えた避難路などを、地域で考えていかなければいけない。
- ・ 自主防災組織を立ち上げた時は訓練もやっていたが、高齢化とともに回数も少なくなり、最近ではあまりやっていない。

- ・ 自主防災活動について、64.9%の集落で「行っている」と回答。
- ・ 具体的な活動として、「訓練の実施」「設備等の点検」「講習会の実施」といった意見があった。※自由回答

（4）中山間の産業づくり ①産業の状況

集落の主要産業

【代表者聞き取り 問39~42】

■最も多くの人に住んでいた当時の主要な産業

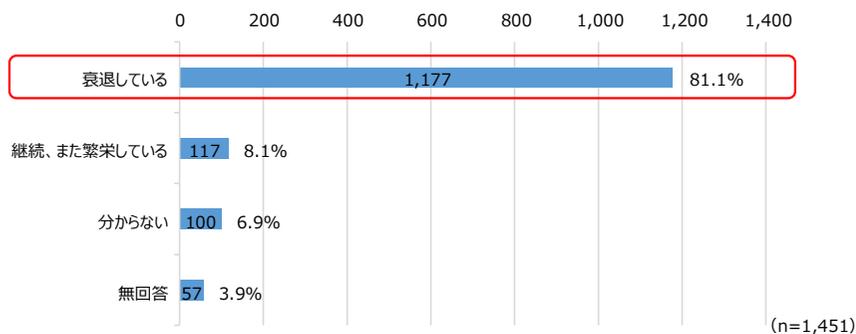
- ・農業 1,213件 (83.6%)
- ・林業 658件 (45.3%)
- ・水産業 58件 (4.0%)
- ・その他 121件

■現在の主要な産業

- ・農業 860件 (59.3%)
- ・林業 66件 (4.5%)
- ・水産業 20件 (1.4%)
- ・土木・建設業 18件 (1.2%)
- ・その他 95件



■現状



■現在の産業の課題

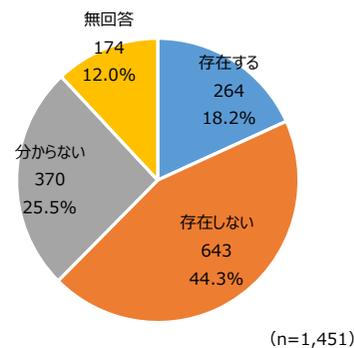
【主な意見】

- ・高齢化、人手不足、後継者不足 : 575件
- ・価格の低下、収入減 : 123件
- ・農地整備、土地の問題 : 50件

【意見例】

- ・会社組織は後継者がいるが、個人事業主は後継者がいないので、先行き不安である。
- ・米価の低下。
- ・主産業だけでは生計が成り立たない。
- ・専業農家は難しいため、兼業である程度安定した収入が確保できる仕事が必要。
- ・農地整備がされていない、土地条件が悪く栽培に適さない。
- ・新しい取組（養殖など）、IT技術の導入などが出来れば変わる。

■後継者について

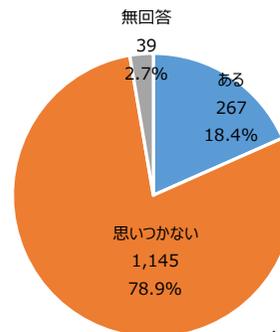


- ・最も多くの人に住んでいた当時の主要な産業として、「農業」（83.6%）が上位。現在の主要な産業でも、「農業」（59.3%）が上位。
- ・それぞれの産業の現状として、81.1%の集落で「衰退している」と回答。また、後継者について、44.3%の集落で「存在しない」と回答。

今後の展開

【代表者聞き取り 問43,44】

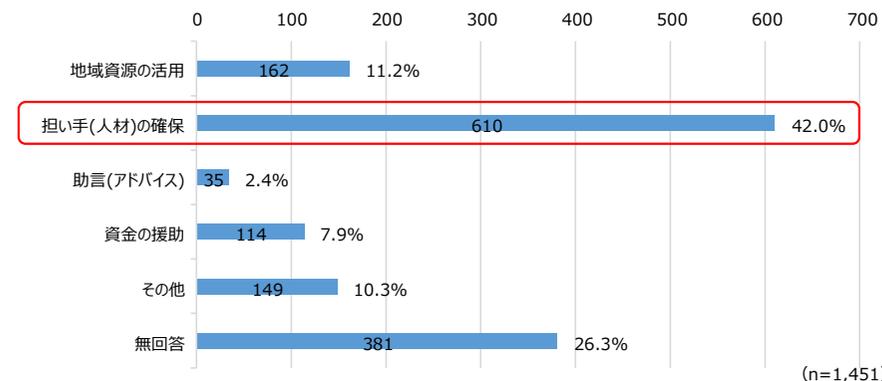
■産業振興につながる資源の有無



【主な資源】

- ・食べ物：141件（米、なす、柚子、生姜 等）
- ・林業：40件
- ・自然：36件
- ・観光：25件
- ・歴史・文化：23件

■産業振興に必要なもの



【意見例】

- ・新たなことを始めたい人に対して、地域の実情に合わせた補助金制度の創設も必要。
- ・外国人研修生の受け入れも考えたいが、個人ではどうしたらいいかわからないため、行政の力は必要だと思う。
- ・担い手のいない現状を何とかしないと地域は廃れていく一方だと思う。
- ・実際には難しいことだが、若い人が帰ってくるようなことが必要。
- ・インターネット環境が必要。
- ・漁師、ダイバーが勉強をし始めている。3~4年前から活動が活発になってきて、つながりも出来てきている。

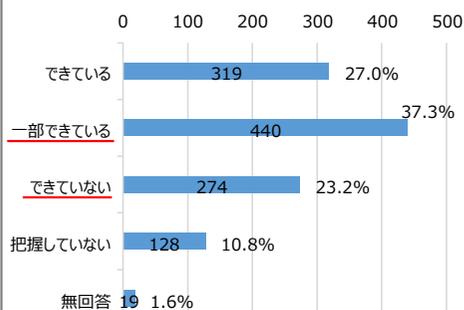
- ・前回の調査では、今後の産業振興につながる資源について、27.9%の集落で「ある」と回答。
- ・今回の調査では、18.4%の集落で「ある」と回答。また、今後の集落の産業振興に必要なものとして、「担い手の確保」（42.0%）が上位。

（４）中山間の産業づくり ②農業

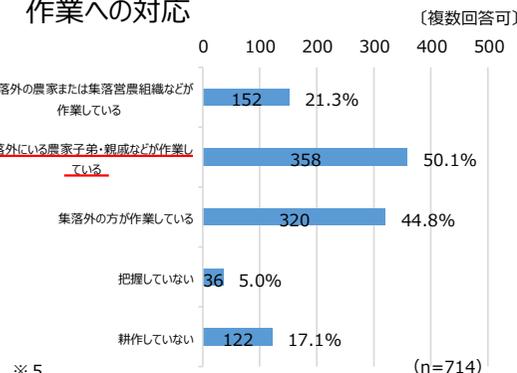
農業の現状・課題

[代表者聞き取り 問46～48]

■ 農業生産に必要な労働力の確保



■ 集落内で確保できていない部分の作業への対応

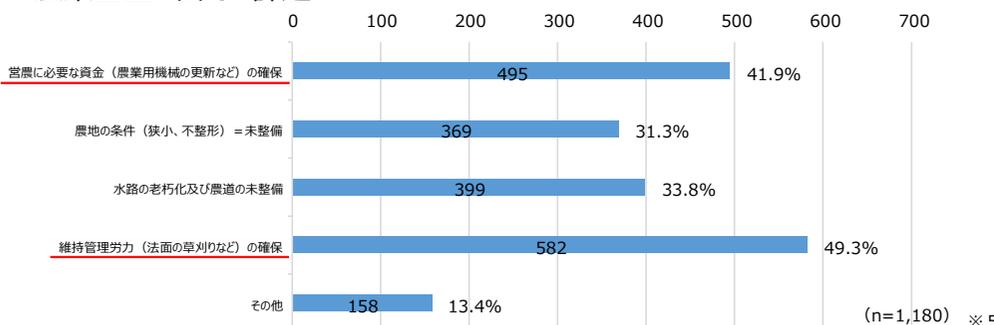


■ 農業生産に必要な労働力の確保のために必要なこと

【主な意見】

- ・ 人材・後継者の育成・確保 : 179件（今農業をしている人の後継者がいない、新規就農者の確保）
- ・ 集落外の人材の活用 : 114件（移住者、集落出身者、外国人材の受入れ、人材派遣の仕組み）
- ・ 安定した収入の確保 : 101件（生活できる所得の確保、人を雇えるだけの資金、米価の値上がり）
- ・ 行政やJAからの援助の充実 : 49件（補助金、営農支援センターによる支援）
- ・ 組織化 : 49件（集落営農組織、農作業の法人化）
- ・ 若者の定着 : 47件（若者が農業に挑戦できる環境をつくる）
- ・ 多様な働き方、関わり方 : 31件（半農半X、パート、農繁期の人手確保、シルバー人材確保センター）
- ・ 機械や生産技術の活用 : 28件（機会設備の維持・管理、スマート農業）

■ 農業基盤の面での課題

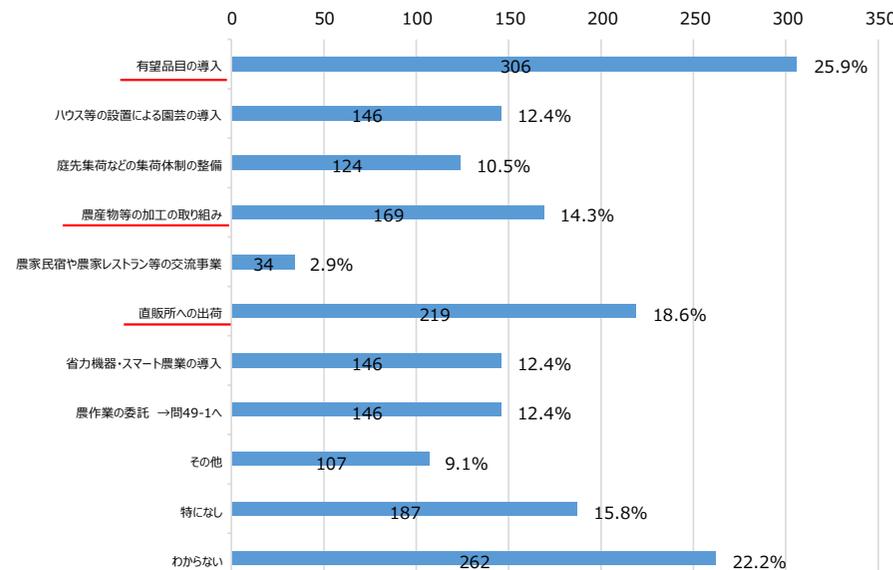


- ・ 持続的な農業生産に必要な労働力について、37.3%の集落で「一部できている」、23.2%の集落で「確保できていない」と回答。集落内で確保できていない部分の作業について、50.1%の集落で「集落外にいる農家子弟・親戚などが作業している」と回答。
- ・ 農業基盤の面での課題では、「維持管理労力（法面の草刈りなど）の確保」（49.3%）「営農に必要な資金」（41.9%）が上位。

農業所得の向上

[代表者聞き取り 問49～50]

■ 農業所得向上に必要な取組



■ どのような支援が必要か

【主な意見】

- ・ 資金面の補助、補助金の拡充 : 153件（設備投資への補助、補助金制度の拡充）
- ・ 専門的な助言、情報提供 : 86件（有望品目の情報、分野に精通した専門家の派遣、営農指導）
- ・ 国・自治体やJAの支援 : 41件（1次産業に対する支援の整備、国の政策）
- ・ 人材面での支援 : 35件（人材の確保・斡旋・派遣、日雇いの仲介）
- ・ 販売までの仕組みづくり : 30件（加工品としての販売、パイヤーとのつなぎ、販路開拓の支援）

【意見例】

- ・ 農業が業として成り立たない中、環境保全という視点で公費を支給して農地を守る仕組みが必要だと思う。現状の中山間直接支払制度の交付金では額が少ない。
- ・ 直販出荷者も高齢化しているので、庭先出荷（集荷）のような仕組みづくりが必要だと思う。

- ・ 農業所得を向上するために必要な取組として、「有望品目の導入」（25.9%）「直販所への出荷」（18.6%）「農産物等の加工の取り組み」（14.3%）が上位。必要な取組への支援として、「資金面の補助、補助金の拡充」「専門的な助言、情報提供」といった意見があった。

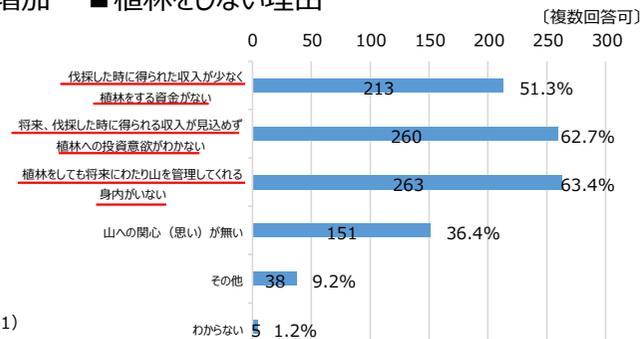
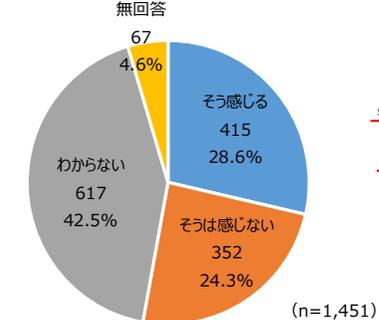
（4）中山間の産業づくり ③ 林業

周辺の植林

〔代表者聞き取り 問51～53〕

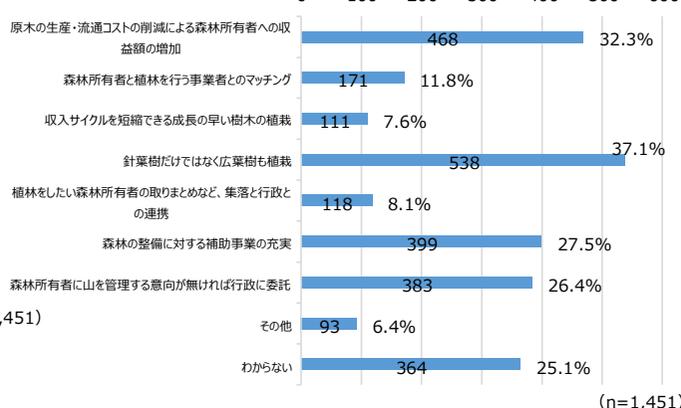
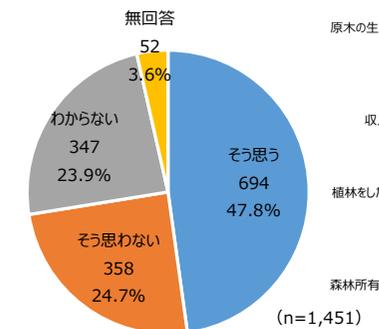
■ 植林をしない森林所有者の増加

■ 植林をしない理由



■ 植林することの必要性

■ 植林を進めるために必要な取組



【意見例】

- ・ 保水力のある森づくりや雇用の創出のため、荒廃した民有林の間伐を進めていきたいので支援をお願いしたい。
- ・ 皆伐と植林は必ずセットにする。
- ・ 植えてから40～50年経たないと収入にならない。
- ・ 県として流通の問題等に取り組むことにより、県産材の利用促進を図ることで、中山間地域の活性化になるのではないかと。
- ・ 木材の安さと住民の高齢化により、森林の間伐や植林、手入れができていない。

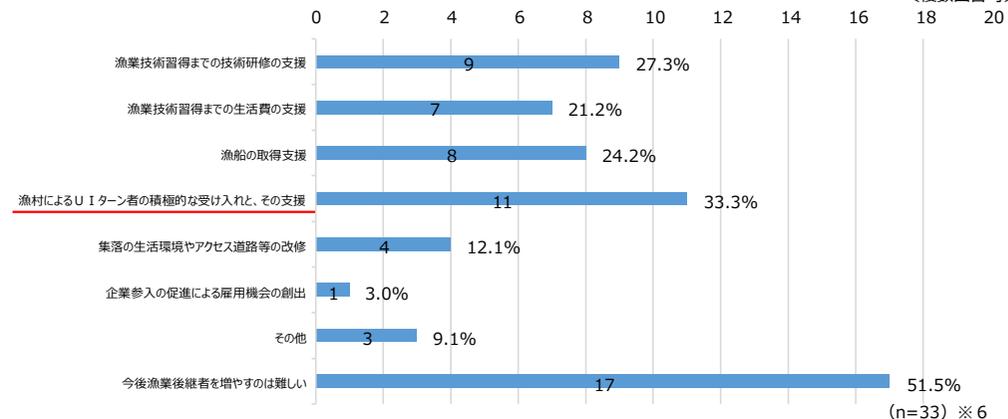
- ・ 森林（人工林）を伐採した後に植林しない森林所有者が増えたと感じるかについて、28.6%の集落で「そう感じる」と回答。
- ・ 植林をしない理由では、「植林をしても将来にわたり山を管理してくれる身内がない」（63.4%）「将来得られる収入が見込めず植林への投資意欲がわからない」（62.7%）「伐採時に得られる収入が少なく植林する資金がない」（51.3%）が上位。
- ・ 一方、森林（人工林）を伐採した後に植林することが必要と思うかについて、47.8%の集落で「そう思う」と回答。

（4）中山間の産業づくり ④ 漁業

漁業の現状

〔代表者聞き取り 漁問2～3〕

■ 漁業後継者を増やすために必要な取組



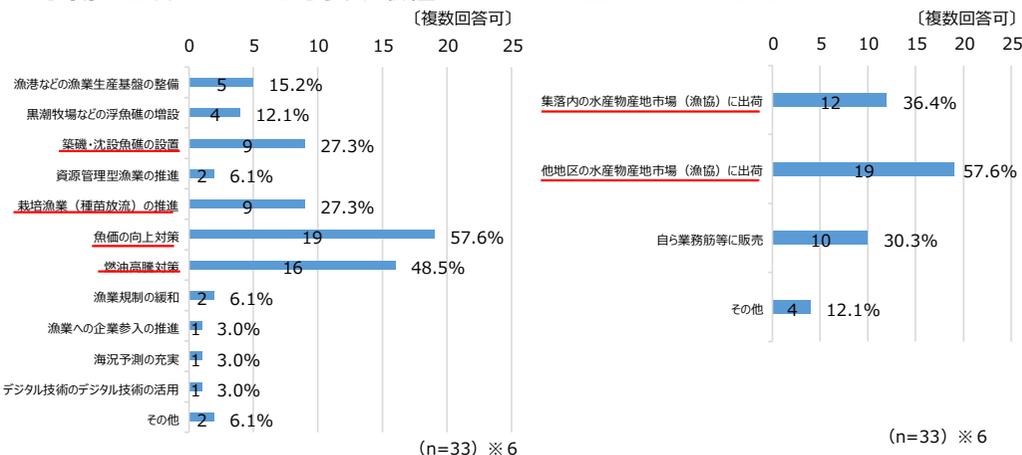
- ・ 前回の調査では、漁業後継者の有無について、60.9%の集落で「いる」と回答。
- ・ 今回の調査では、42.4%の集落で「いる」と回答。漁業後継者を増やす取組として、「漁村によるUIターン者の積極的な受け入れとその支援」（33.3%）が上位。

経済活動

〔代表者聞き取り 漁問5～6〕

■ 水揚げを増やすために必要な取組

■ 漁獲物の販売方法



- ・ 水揚げを増やすために必要な取組では、「魚価の向上対策」（57.6%）「燃油高騰対策」（48.5%）「築磯・沈設魚礁の設置」（27.3%）「栽培漁業の推進」（27.3%）が上位。
- ・ 漁獲物の販売方法では、「他地区の水産物産地市場（漁協）に出荷」（57.6%）「集落内の水産物産地市場」（36.4%）が上位。

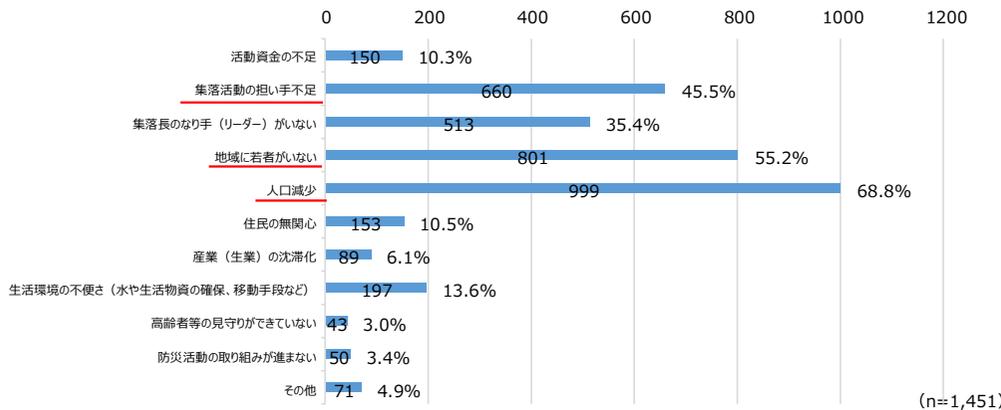
（5）集落の活性化

集落代表者として①

[代表者聞き取り 問54,55]

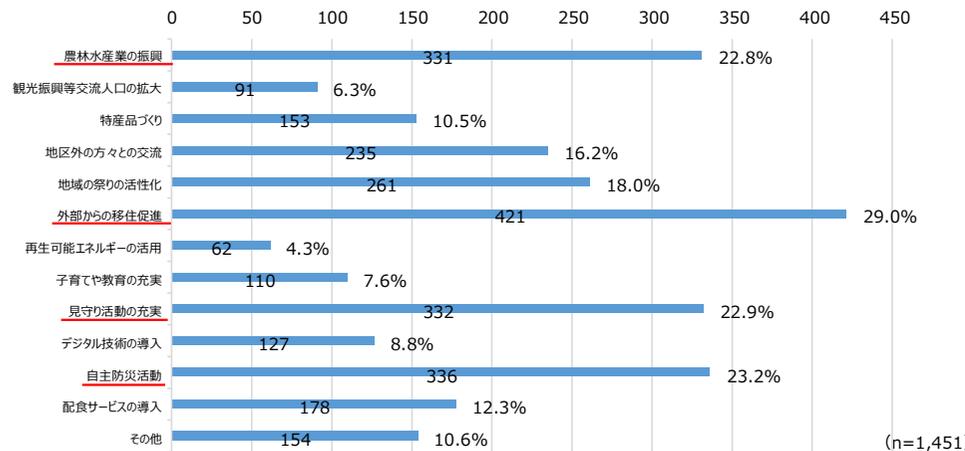
■ 集落で困っていること（課題や悩み）

（複数回答可）



■ 今後、集落で取り組みたいこと

（複数回答可）



【意見例】

- ・ 景観、環境づくりによってブランド化し、特産品を作る。
- ・ 中山間直払制度の他に農地を守るための支援（資金）が必要。
- ・ 山間の集落を維持できる補助金があれば良い。
- ・ 民生委員など地域のために活動されている方が無給であるということが理解できない。交通費などの経費も公的に負担されるべきだと思う。

- ・ 集落代表者として、集落で困っていること（課題、悩み）について、「人口減少」（68.8%）「地域に若者がいない」（55.2%）「集落活動の担い手」（45.5%）が上位。
- ・ 今後、集落で取り組みたいこととして、「外部からの移住促進」（29.0%）「自主防災活動」（23.2%）「見守り活動の充実」（22.9%）「農林水産業の振興」（22.8%）が上位

集落代表者として②

[代表者聞き取り 問56]

■ 集落代表者をやっていて、良かったことやうれしかったこと その他ご意見

【主な意見】

- ・ 地域住民や他地区との交流 : 216件
- ・ 地域の人たちが協力的 : 130件
- ・ 地域の人に頼りにされる、感謝されること : 79件
- ・ 要望を実現できたこと : 46件
- ・ 地域の人たちが喜んでくれること : 39件

【意見例】

○ よかったこと、うれしかったこと

- ・ 集落活動センターに関わることもなり、知る人が多くなったこと。
- ・ お宮に集まって皆で寄り合いをすることが楽しい。コロナの影響で最近では出来ていないことがさみしい。
- ・ ここに来たら綺麗で良いところと言ってもらえるように、自分たちが出来ることをしたいと話している。訪問者の方との接点を作ってくれる支援員や協力隊の方々に感謝している。
- ・ 様々な人とのつながり（特に集落外）が広がり、必要とされていることが実感できている。
- ・ 地域出身者が行事やイベント等で帰ってきてくれること。
- ・ 色々な経験をして、集落に対する理解が深まった。
- ・ 小集落では人口減少のため活動が停滞しているが、（小集落が複数集まった）地区全体としては、いろいろ活動し成果を上げていることを知った。その一端を担えたことはよかったし、少し希望も持てる。
- ・ SNSを通じて地域の情報発信を行い、地域外の人々との交流ができていくことが楽しみとなっている。

○ 集落代表者としての苦勞

- ・ 部落長としては住民をうまく説得するには苦勞したけど、自ら草刈りや村が行っている行事などに自分なりに取り組んでいたことは満足している。今後は、色々取り組んでくれる人が少なくなる。早く若い人の人材育成をしたい。
- ・ 地域の衰退を見るのがつらい。今は踏ん張りどころかと思う。地域のために、汗をかくことはうれしい。
- ・ 大変なことが多かったが、皆で助け合っていかなければやっていけない。地区の存在を守るためにやっていく。やりがいや美しさ等、綺麗事ではない。

○ 集落代表者としての思い

- ・ 何もしないであきらめるより、やっていまいと実感できることが大切だと思う。リーダーになる人たちの気持ちの問題が大事。
- ・ 昔のように賑やかになってほしいとは思いますが、救急車が40分もかかって来る所へ子ども達に帰って来いとまではとて言えない。不便なところへ生活しに来るのは都会の人には無理だと思う。住めば都ではある、故郷を捨ててはならないことを伝えたい。
- ・ 地域が補助金に頼りすぎていると思う。「行政に頼んだらいい」、「行政がやってくれる」というような気持ちではダメだと思っている。
- ・ 不便を了解の上で自然と静けさを楽しむ人が住む集落なので人口も少なくなるが、そういった住み方ができる場所も貴重だと思う。考えを共有できる人が移住してくれ、この場所が住む場所として続いていくことを望んでいる。
- ・ いつまでも続いていくことは難しいことだと感じるが、誰かが地域にいる限りは守っていきたいと思う。自分たちが育ったところは大切にしていきたい。

○ 行政に対して望むこと

- ・ もっとたくさん人がいて、若い後継者を育てたりできたら楽しめると思う。帰ってきたい人もいるが、仕事がない。お金を稼ぐことができれば住むことはできない。行政は生活に直結するサービス等に力を入れてほしい。
- ・ 個人や集落の力ではどうしようもない時に来ている。集落の再編等も考えていかなければいけない。
- ・ 何をしても人がいないので、人を増やす政策（子どもを産みやすく育てやすい環境づくり）をしてもらいたい。（若者が転出する田舎と転入する都会との）生活環境や賃金の格差を是正することも必要だと思う。田舎だからこそインターネット環境を充実させてもらいたい。

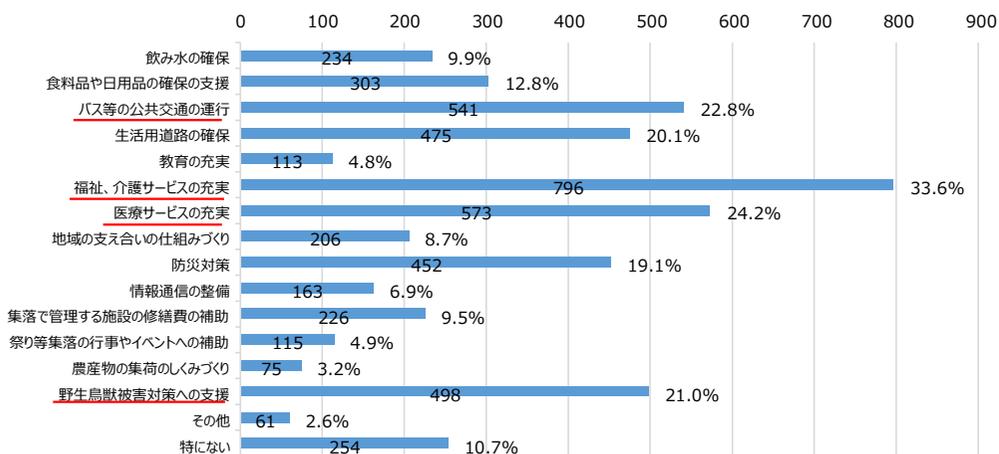
（５）集落の活性化

ご意見①

[住民アンケート 問48,49]

■ 今後、行政に力を入れてほしいこと（生活を守る取り組み）

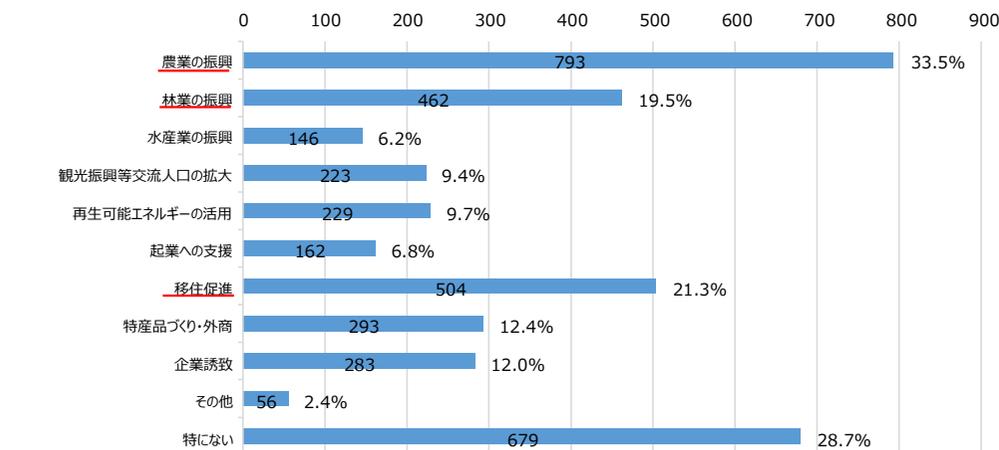
（複数回答可）



(n=2,368)

■ 今後、行政に力を入れてほしいこと（産業をつくる取り組み）

（複数回答可）



(n=2,368)

- 行政に力を入れてほしいこととして、生活を守る取り組みでは、「福祉介護サービスの充実」（33.6%）「医療サービスの充実」（24.2%）「バス等の公共交通の運行」（22.8%）「野生鳥獣被害対策への支援」（21.0%）が上位。
- 産業をつくる取り組みでは、「農業の振興」（33.5%）「移住促進」（21.3%）「林業の振興」（19.5%）が上位。

ご意見②

[住民アンケート 問50,51]

■ 集落での明るい話題や前向きな活動

【意見例】

- ・ 集落活動センターができ、活動が本格化しそう。
- ・ 地域おこし協力隊が来た。移住者が増えた。
- ・ 月 2 回のサロン、高齢者の集いなどで楽しく過ごしている。
- ・ 地域の活動内容を書いた新聞・通信の発行を楽しみにしている。
- ・ 子供の誕生は明るい話題。過疎地域でも、人情豊かな人と人との明るい交流がまだまだある。
- ・ 少数の若い人が野生鳥獣対策のために免許を取り、イノシシなどを捕ってきている。
- ・ 集落営農に取り組む、営農組合での共同作業

■ 集落の生活に必要な取り組み（その他自由意見）

【意見例】

○ 小規模な集落への支援

地区資源を活かして取り組みを行いたい人はいる。集落活動センターは 1 つのきっかけとなる制度だが、「地区の総意」というハードルが高すぎる。色々考え方があり、1 つにまとめることが難しく新たに取り組みたい人達は何もできずに我慢している。集落活動センターとは別に、小さな支援も考えていただきたい。

○ 特産品づくり

収入面で不自由がなく生活していけるのが大事。生産をこれからも続けたいため、幅広いサポートを続けてほしい。収入が増える取り組み（産直、加工品づくり、米のブランド化）。

○ 交流人口の拡大

高速道路や鉄道など交通環境が良くなれば、人の交流も増えて今より良くなると思う。

○ 空き家対策

自宅での生活より病院や老人ホームで過ごす人が増えたため、空き家が多くなり、防犯の見守りが難しくなった。実際に移住してもらうとなると、（住める状態の）家の確保は最重要課題。

○ 鳥獣被害対策

鳥獣被害（シカやイノシシ、サル等）が深刻で対策が必要。家で食べる野菜を作っているが、野生鳥獣被害が多く困っている。

○ 急病時の連絡手段の確保

一人暮らしの人が多いので、急病の時の連絡ができるか心配。見守り等声かけが必要だと思う。

○ 移動手段の確保

高齢者の移動手段の確保をしてほしい。免許返納後の移動手段を確保してほしい。運転できなくなった時の移動手段を確保できるかが、集落で生活していくための必須条件。

○ 子育て支援

高齢化、子どもの進路や子育てへの不安がある。若い人に住んでもらって子育てをしてほしい。医療（特に産科、小児科）や教育に力をいれてほしい。

○ 山林の間伐

山林は手入れがされていないところが多く、山に保水力がない。将来は、生活用水や農業用水も足りなくなる恐れがある。山林の手入れや、林道づくりにたくさん補助金を出してほしい。

○ 道路の拡幅・維持、気候変動に対応したインフラ整備

道路の待避所が少ない、道路を拡張してほしい。生活道を整備してほしい。防潮堤のかさ上げ、排水路の拡幅など、気候変動に対応したインフラの整備。

○ その他

人口が減り、集落が無くなることはさみしいが、人が減ること自体が悪いとは思わない。ただし、田畑や家が荒れ果てて自然環境が悪くなることや、つないできた文化が途切れてしまうことが一番嫌。それでも、どうしようもないと諦めているのが地域住民の感情だと思う。せめて今の若い人にその現状を知ってもらいたい。

※ 集計データの補足説明

- ・ ※ 1 : 住民アンケート調査で集落活動センターがある地域のみ集計。(n=1,020)
- ・ ※ 2 : 住民アンケート調査で集落活動センターがない地域のみ集計。(n=1,348)
- ・ ※ 3 : 問 8 - 1 で集落活動センターに取り組んでいると回答した集落のみ集計。(n=250)
- ・ ※ 4 : 問 8 - 1 で集落活動センターに取り組んでいないと回答した集落のみ集計。(n=1,191)
- ・ ※ 5 : 集落内に農業従事者なしと回答した集落は集計から除く。(n=1,180)
- ・ ※ 6 : 集落内に漁業従事者なしと回答した集落は集計から除く。(n=33)